

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-213	高等学校	国語科	古典探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共存する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必履修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が顕在化しています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能

力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための個の自覚を促すとともに総合的な国語力を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉をとおして現実を見つめることで他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動をとおして、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、最も基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選、並びに適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省をふまえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をとおして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるためには、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、編集にあたっては、主たる教材として、生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を喚起することのできる、豊かな価値を有するものとなるよう心がけました。また、言語の教育という観点を重視し、言葉の特徴や使い方に関する事項の学習にも格段の配慮をしました。いずれも、生徒の、言語文化の担い手としての自覚を喚起し、社会に関わろうとする態度を養うことを意図しています。また、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、一貫した流れの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的に彩る教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的・探究的に取り組むことのできる学習課題の設定についても意を用いました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
古文編 第一部		
1 説話	長きにわたり読み継がれてきた説話を読むことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	9 - 16
2 随筆(一)	随筆に表現された筆者のものの見方や考え方を理解することをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号、第五号)	17 - 38
3 物語(一)	物語に描かれた登場人物の行動や心情を読み取り、人間のありようについて考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第四号)	39 - 54
4 随筆(二)	筆者の考え方を読み取ることで、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した(第一号、第三号)	55 - 64
5 物語(二)	物語に描かれた登場人物の心情や行動について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	65 - 78
6 歴史物語	描かれた内容にふれることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	79 - 96
7 日記文学	日記の特徴を理解し、記された内容を読み取ることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した(第一号、第二号)	97 - 106
8 軍記物語	物語の背景や享受について理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	107 - 118
9 和歌・連歌・俳諧	韻文の読解、朗読、創作をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、個人の価値を尊重し、想像力を培うことを目指した(第二号、第五号)	119 - 138
古文編 第二部		
1 説話	長きにわたり読み継がれてきた説話を読むことをとおして、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した(第二号、第五号)	139 - 144
2 随筆	随筆に表現された筆者の価値観や心情を読み取ることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	145 - 154
3 物語	物語に描かれた登場人物の行動や心情にふれ、和歌や芸能などの多様な言語文化と接続する物語の広がりについて考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。また、生命を尊び、自然を大切に、豊かな情操と道徳心を培うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した(第一号、第三号、第四号、第五号)	155 - 202
4 日記文学	日記に表現されたできごとや心情を読み取ることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。また、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した(第一号、第二号)	203 - 218
5 歴史物語	歴史的な物語に描かれたできごとの背景を理解することをとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、生命を尊ぶとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第三号、第五号)	219 - 238
6 評論	評論に表現された筆者の考えを参考に自らの言語表現について考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した。また、こうした評論の現代的な意義について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第五号)	239 - 266
七 近世の文学	多岐にわたる知識が民衆に共有されることになった近世の作品や、多様な出版文化にふれ、それぞれの特徴や、現代まで伝わってきた意義について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	267 - 282

漢文編 第一部		
1 故事成語	現代でも使われる成語のもととなった故事を読み、言葉の奥行きについて考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	9 - 16
2 漢詩 近体詩	近体詩の形式や内容の理解、日本の言語文化における漢詩の意義について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	17 - 26
3 史伝	史伝に描かれた状況を読み取り、登場人物の生き方について考えることをとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)	27 - 46
4 文章	文章に表現された主張について、自分の意見をもって話し合うことなどとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)	47 - 60
5 思想 儒家・道家の思想	中国の思想を形成する柱となった儒家と道家の思想の特徴を理解することをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第五号)	61 - 76
6 小説	小説という非日常的な内容が描かれた話の展開や構成を理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。また、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第一号、第四号)	77 - 92
7 日本の漢詩文	日本で書かれた漢詩文を読み、身近にある漢詩文について調べ、日本の言語文化における漢詩文の意義について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	93 - 100
漢文編 第二部		
1 小話	作品の表現の工夫やおもしろさについて理解することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	101 - 108
2 「三国志」の世界	歴史と小説が混ざり合い、一体のものとして受容されてきた「三国志」の世界について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	109 - 120
3 漢詩 古体詩	内容の理解、解釈をふまえて朗読することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した(第一号)	121 - 130
4 小説	小説の構成や展開について理解を深め、翻案された作品と読み比べることなどとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培い、健やかな身体を養うことを目指した(第一号、第二号)	131 - 142
5 思想 思想と寓話	諸子百家の思想が寓話を用いて表現されたことについて考えることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第二号、第三号)	143 - 158
6 史伝	『史記』の中にどのような話が集められ、また読み継がれてきたかについて考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	159 - 174
7 文章	文章の表現や構成、歴史的な評価などをもとに内容を理解することをとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。また、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第三号、第四号)	175 - 184
8 長恨歌	作品内容の理解、解釈を深めるとともに、中国の文化と関連する日本の言語文化について考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)	185 - 196

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-213	高等学校	国語科	古典探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

言語文化の変遷について理解を深め、さまざまな角度から古典の世界に慣れ親しむことができるような教材選定

教材として用いる作品の選定、教材化(課題等の策定)にあたっては、共通必修科目である「言語文化」における学習の成果をふまえ、古文・漢文とも、各時代、各ジャンルにわたって、学習者が興味・関心をもって学習することができる基本的な文章、探究的な学びへの意欲を高めるような読み応えのある文章等、学習者の発達段階に配慮しつつ、広く、またバランスよく取り上げました。

(2) 構成と配列の基本方針

古文と漢文とを対象とする「古典探究」の性格をふまえ、一つ一つの教材の価値を大切にしながら、学習者がテキストに対し過度の抵抗感をもつことなく、体系的な知識の習得と自発的かつ継続的な学習ができるよう、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

学習の流れを重視し、古文編と漢文編の二分冊としました。また、両編とも二年度以降三年次までの使用が想定されるという観点から、全体を大きく二部構成としました。

2 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」

言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化について、学習者の興味・関心を広げ、知識及び技能の着実な理解を図るために、さまざまな工夫を凝らしました。それぞれの教材に「文法と語彙」を設け、文法・句法や語彙等について取り上げました。我が国の言語文化に特徴的な表現の技法を学ぶだけでなく、古典と現代の言葉の連続性や変化について考えることで、実生活における総合的な国語運用力の向上を図ることができるよう、特に配慮してあります。また、「古文／漢文読解のために」というコラムを設け、文語、訓読のきまりや特徴的な表現の技法、古典を読むために必要な知識等について理解することが、学習者自身の知見を広げ、解釈を深めることにつながることを示しました。

3 「読むこと」

個々の作品に特有の表現やその時代背景等に留意した学習を進められるよう、文種・時代による単元構成を基本としました。同時に、時代を越えたテーマを意識した単元を設けたり、時代的には古典に含まれない作品や古典について書かれた現代の文章等を適宜取り上げたりすることで、「古典」全体を見わたす視座を強く意識しています。また、コラム「古典の扉」では、教科書に採録された教材の内容理解や文学史の流れを通して古典全般への興味・関心を喚起し、学習者が自らすすんで古典を読むきっかけとなるよう意を用いました。

4 学習指導についての配慮

- ①課題……原則として、各教材の末尾に設け、内容を理解するための項目を、問いや作業の指示の形で適宜盛り込みました。
- ②学びを広げる……「課題」を発展させた活動として、言葉の学びを主体的かつ協働的に深め、広げられるような課題を適宜設けました。
- ③文法と語彙……教材中の言葉や文語・訓読のきまり等に注目し、語彙の拡充と文法・句法習得のための課題を設定しました。
- ④語句・句法・訓読で注意する語……古文編では、古文理解の上で基礎となるとされる古今異義語・古文特有語を中心に、本文に印を付して脚注欄に掲げました。漢文編では、漢文理解の基礎となる基本的な句法と、訓読の際に注意す

べき語について、本文に印を付してそれぞれ脚注欄に掲げました。

- ⑤脚注……学習者が容易に調べられるものや文脈から類推できるようなものは除き、内容理解のための有用な情報として機能するよう、わかりやすい注を施しました。
- ⑥脚問……丸番号を用いて、脚注欄に据えました。「脚問」は「課題」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく手がかりと位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。
- ⑦二次元コード……各単元の扉等に適宜二次元コードを付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

5 用字・用語・表記について

- ①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。
- ②常用漢字以外の漢字については、学習者の発達段階に配慮しつつ、原則として本文教材ごとの初出に振り仮名をつけました。
- ③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、原則として教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞等読みにくいもの、迷いやすいもの等には適宜振り仮名をつけました。
- ④仮名遣いは、本文については歴史的仮名遣いとし、解説等口語体の文章は現代仮名遣いとし、振り仮名も同様です。
- ⑤外国地名・外来語等のカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

6 写真・挿絵・図版等について

教材の読解や鑑賞の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版等を必要に応じて掲載しました。

7 巻頭・資料編・巻末について

学習者が主体的に学びを広げていくために参考となる、以下の資料を収録しました。

- 古文編…「この教科書で学ぶ 作品と文学史」「絵でたどる 平安貴族の一生」「装束」「ブックガイド」「古典文法要覧」「古典文学史年表」「古文重要語句」「官制・官職／位階」「陰暦」「古時刻／古方位／十干と十二支」「旧国名・都道府県名対照図」「住居・調度」「京都付近地図・奈良付近地図」「平安京条坊図／内裏図／大内裏」
- 漢文編…「この教科書で学ぶ 作品と文学史」「漢文参考略年表」「漢文の風景」「漢文の基本形式」「訓読で注意する語」「ブックガイド」「五行・十干／十二支・干支／度量衡表」「太陰太陽暦／二十四節気」「春秋時代要図・戦国時代要図」「中国参考地図」

これらの活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言語活動が豊かなものとなることが期待されます。

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）		学習指導要領の内容	該当箇所
古文編 第一部			
1 説話	博雅の三位と鬼の笛（十訓抄） 小野篁、広才のこと（宇治拾遺物語） 大江山（古今著聞集）	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと ア・イ	10~11 12~13 14~15
2 随筆（一）	徒然草（あだし野の露消ゆる時なく／悲田院の堯蓮上人は／世に従はん人は／花は盛りに） 〈参考〉玉勝間（兼好法師が詞のあげつらひ） 方丈記（ゆく河の流れ／安元の大火／日野山の閑居）	◆言葉の特徴や使い方 イ・ウ ◆我が国の言語文化 エ ●読むこと イ・ウ・カ 〔言語活動例〕 イ	18~26
	《学びを広げる》随筆と記録——『百練抄』との読み比べ		27 28~31,34~36
	[古典の扉] 随筆が描く世界		32~33 37
3 物語（一）	竹取物語（かぐや姫の昇天） 伊勢物語（初冠／月やあらぬ／小野の雪／つひにゆく	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 エ	40~44 46~51

	道) 大和物語 (姨捨) [古典の扉] 物語の系譜①——『源氏物語』以前	●読むこと ア・ウ	52~53 45
4 随筆 (二)	枕草子(すさまじきもの/中納言参り給ひて/雪のいと高う降りたるを) 〈参考〉香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁 《学びを広げる》古語と現代語	◆言葉の特徴や使い方 ア ◆我が国の言語文化 イ・ウ ●読むこと エ・カ・キ [言語活動例] カ	56~58,60~62 63 59
5 物語 (二)	源氏物語 (光源氏の誕生/藤壺の入内/北山の垣間見) [古典の扉] 垣間見——恋の始まりを語る	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと エ・オ	66~76 77
6 歴史物語	大鏡(雲林院の菩提講/花山天皇の出家/弓争ひ/三舟の才) 《学びを広げる》『栄花物語』との読み比べ [古典の扉] 語り継がれる「歴史物語」	◆言葉の特徴や使い方 イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと エ・オ・ク [言語活動例] イ	80~86,91~95 87~89 90
7 日記文学	更級日記 (あこがれ/源氏の五十余巻) 建礼門院右京大夫集 (なべて世のはかなきことを) [古典の扉] 「日記文学」作品の性格	◆言葉の特徴や使い方 イ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと ウ・キ	98~102 104~105 103
8 軍記物語	平家物語 (忠度の都落ち/能登殿の最期) [古典の扉] 平家の光と影をたどる	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと エ・オ	108~115 116~117
9 和歌・連歌・俳諧	和歌十七首 水無瀬三吟百韻 俳諧二十句 [古典の扉] 和歌から連歌へ、連歌から俳諧へ 《学びを広げる》〈座の文学〉を楽しもう	◆言葉の特徴や使い方 イ・エ ●読むこと イ・ウ [言語活動例] ウ・エ	120~127 128~129 134~137 130 131~133
古文編 第二部			
1 説話	四の宮河原地蔵のこと (宇治拾遺物語) 小大進、北野の神助を被ること (古今著聞集)	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと ア・イ	140~141 142~143
2 随筆	枕草子(宮に初めて参りたるころ/二月つごもりごろに/大納言殿参り給ひて) [古典の扉] 中関白家の盛衰——『枕草子』を読むために	◆言葉の特徴や使い方 ア ◆我が国の言語文化 イ ●読むこと エ・カ	146~148, 150~153 149
3 物語	源氏物語(物の怪の出現/心づくしの秋風/明石の君の苦悩/女三の宮の降嫁/柏木の垣間見/萩の上露/浮舟と匂宮/小野の里訪問) 「光源氏の物語」「光源氏亡き後の物語」 堤中納言物語 (虫めづる姫君) 〈参考〉愛づ——虫愛づる姫君 [中村桂子] 《学びを広げる》能「葵上」 [古典の扉] 物語の系譜②——『源氏物語』以後	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと ア・ウ・キ・ク [言語活動例] ア	156~161, 164~194 196~198 199~201 162~163 195
4 日記文学	蜻蛉日記 (うつろひたる菊/鷹を放つ) 和泉式部日記 (夢よりもはかなき世の中を) 紫式部日記 (秋のけはひ/日本紀の御局) 《学びを広げる》『蜻蛉日記』広がる逸話	◆言葉の特徴や使い方 イ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ウ・エ [言語活動例] イ	204~205, 208~209 210~212 213~217 206~207
5 歴史物語	大鏡 (道真と時平/最後の除目/肝試し/道長と詮子)	◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆我が国の言語文化 ア・エ	220~225, 228~237

	《学びを広げる》日本三大怨霊	●読むこと ア・エ・キ [言語活動例] オ	226~227
6 評論	古今和歌集仮名序 (やまと歌は) 俊頼髓脳 (沓冠折句の歌) 無名草子 (清少納言/紫式部) 無名抄 (深草の里) 毎月抄 (心と詞) 正徹物語 (一字の違い) 風姿花伝 (下手は上手の手本) 去来抄 (行く春を/岩鼻や) 難波土産 (虚実皮膜の間) 源氏物語玉の小櫛 (もののあはれ)	◆言葉の特徴や使い方 ア ◆我が国の言語文化 ウ・エ ●読むこと イ・ウ・オ・キ [言語活動例] キ	240~241 242~243 244~247 248~249 250~251 252~254 255~257 258~260 261~262 263~264
	《学びを広げる》世阿弥の言葉		257
	[古典の扉] 国学の隆盛		265
7 近世の文学	西鶴諸国ぼなし (大晦日は合はぬ算用) 曾根崎心中 (道行)	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア・ウ・エ	268~272 274~277
	《学びを広げる》読み比べ——太宰治「貧の意地」	●読むこと エ・ク [言語活動例] イ	273
	[古典の扉] 近世の多様な出版文化		278~281
	古文読解のために	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ	16・38・54・ 64・78・96・ 106・118・138・ 144・154・202・ 218・238・266・ 282
漢文編 第一部			
1 故事成語	漱石枕流 (世説新語) 画竜点睛 (歴代名画記) 杞憂 (列子) 塞翁馬 (淮南子)	◆我が国の言語文化 イ・ウ ●読むこと ア・イ	10 11 12~13 14~15
	2 漢詩	◆言葉の特徴や使い方 イ・エ ●読むこと イ・エ	18~24
	3 史伝	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ●読むこと ウ・エ・カ [言語活動例] イ	28~41 42~43 44~45
	4 文章	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ ◆我が国の言語文化 エ ●読むこと ア・イ・オ・カ [言語活動例] ア	48~50 52~53 54 55~58
5 思想	儒家・道家の思想 (論語/孟子/荀子/老子/荘子) 〈参考〉『荘子』と素粒子 [湯川秀樹] [古典の扉] 儒家と道家	◆我が国の言語文化 ウ・エ ●読むこと ア・キ	62~71 72~74 75
6 小説	桃花源記 人虎伝	◆言葉の特徴や使い方 イ・ウ ◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと ウ・エ・カ [言語活動例] イ	78~81 82~89
	《学びを広げる》「人虎伝」と「山月記」を読み比べる		90

	[古典の扉] 中国における「小説」		91
7 日本の漢詩文	日本の漢詩文(自詠/山茶花/泊天草洋/桂林荘雑詠 示諸生/送夏日漱石之伊予/無題/航西日記)	◆言葉の特徴や使い方 エ ◆我が国の言語文化 ア ●読むこと イ・エ	94~98
	[古典の扉] 日本の漢詩文		99
漢文編 第二部			
1 小話	不死之薬(韓非子)	◆言葉の特徴や使い方 ア・ウ	102~103
	三横(世説新語)	◆我が国の言語文化 ウ	104~105
	不顧後患(説苑)	●読むこと ア・イ・オ	106~107
	《学びを広げる》諫言の方法	[言語活動例] ウ	108
2 「三国志」 の世界	「三国志」の世界(乱世之姦雄/三往、乃見/進退於 赤壁/股肱之力)	◆言葉の特徴や使い方 ア ◆我が国の言語文化 ウ ●読むこと ウ・エ	110~117
	[古典の扉] 日本人と三国志		118~119
3 漢詩	古体詩(桃夭/生年不滿百/秋風辞/飲酒/兵車行)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・エ ●読むこと イ・エ・キ・ク	122~128
	《学びを広げる》朗読会を開く	[言語活動例] エ	129
4 小説	売鬼	◆言葉の特徴や使い方 ウ	132~134
	人面桃花	◆我が国の言語文化 エ	135~138
	酒虫	●読むこと ウ・カ	139~141
5 思想	思想と寓話(孟子/荀子/老子/荘子/列子/韓非子 /墨子)	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ ●読むこと カ・キ	144~156
	[古典の扉] 諸子百家の時代 ——力を求める多様な思想家たち		157
6 史伝	史記 廉頗と藺相如(完璧帰趙/刎頸之交) 荊軻(風蕭蕭兮易水寒/図窮而匕首見)	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ ◆我が国の言語文化 ウ ●読むこと ウ・カ・キ	160~166 167~172
	《学びを広げる》裏目に出る法家の統治術 ——『史記』刺客列伝	[言語活動例] ア	173
7 文章	捕蛇者説	◆言葉の特徴や使い方 ウ	176~179
	赤壁賦	◆我が国の言語文化 ウ ●読むこと ア・オ	180~183
8 長恨歌	長恨歌	◆言葉の特徴や使い方 ウ・エ	186~193
	《学びを広げる》「長恨歌」と『源氏物語』『枕草子』 を読み比べる	◆我が国の言語文化 ア・エ ●読むこと エ・カ・ク [言語活動例] イ	194~195
	漢文読解のために	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ・ウ	16・26・46・ 60・76・92・ 100・120・130・ 142・158・174・ 184・196

音訓一覧表 古典探究1

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
則	のり	〈1〉	貫	ぬき	〈5〉	逸	いち	11
貫	つら	〈1〉	衣	きぬ	〈5〉	芳	よし	11
俊	とし	〈1〉	単	ひとえ	〈5〉	候	さぶら	12
頼	より	〈1〉	畳	たとう	〈5〉	子	ね	13
出	い	〈1〉	表衣	うわぎ	〈5〉	保	やす	14
祖	おや	〈1〉	紅	あか	〈5〉	妻	め	14
和泉	いずみ	〈1〉	訓	きん	2	合	あはせ	14
級	しな	〈1〉	詞	ことば	2	侍	し	14
孝	たか	〈1〉	給	たま	2	貞	さだ	14
標	すえ	〈1〉	偶	たまたま	2	皇	のう	14
女	むすめ	〈1〉	入	じゆ	2	生	いく	15
実	さね	〈2〉	雲	う	3	成	なり	15
朝	とも	〈2〉	提	だい	3	季	すえ	15
定	さだ	〈2〉	出	す	3	飲	おん	15
水	み	〈2〉	才	ざえ	3	邸	やしき	16
向	むか	〈2〉	忠	ただ	3	母	も	16
謝	さ	〈2〉	度	のり	3	英	ひで	16
鶴	かく	〈2〉	能	の	3	土	ひじ	16
世	ぜ	〈2〉	違	たが	3	煙	けぶり	18
弥	み	〈2〉	怪	け	4	年	とせ	18
衛	え	〈2〉	明石	あかし	4	化	あだし	18
難波	なにわ	〈2〉	御	み	4	辱	はぢ	19
徒然	つれづれ	〈2〉	法	のり	4	陽	ひ	19
居	おり	〈2〉	愛	め	4	則	すなは	19
宣	のり	〈2〉	局	つぼね	4	某	なにがし	20
長	なが	〈2〉	真	ざね	4	故郷	ふるさと	20
五十日	いか	〈3〉	冠	かぶり	5	実	まこと	20
百	もも	〈3〉	膜	にく	5	聖	ひじり	20
冠	こうぶり	〈3〉	晦日	つごもり	5	思	おぼ	20
角髪	みずら	〈4〉	太宰	だざい	5	侍	はべ	20
競	くらべ	〈4〉	治	おさむ	5	乏	とも	20
垣	かい	〈4〉	曾	そ	5	本	ほ	20
露	ところ	〈4〉	明	あ	10	相模	さがみ	20
頭	あらわし	〈4〉	朱	す	10	聖	しやう	21
棺	ひつぎ	〈4〉	誰	たれ	10	理	ことわり	21
部	べ	〈4〉	失	う	10	悪	あ	22
飾	かざり	〈5〉	帝	みかど	10	止	や	22
直衣	のうし	〈5〉	博	ひろ	10	猛	たけ	22
立	たて	〈5〉	雅	まさ	10	対	むか	24
帽	ぼ	〈5〉	従	じゆ	10	傾	かたぶ	24

音訓一覽表 古典探究1

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
望	もち	24	埋	うづ	35	三月	やよひ	49
椎	しひ	24	郭公	ほととぎす	35	髪	ぐし	49
順	したごう	24	空	うつ	35	在	あり	49
狩野	かのう	26	保	ぼう	36	業	なり	49
情	こころ	27	賀	か	36	有	あり	49
例	ためし	28	河合	ただす	36	馬	め	50
去年	こぞ	28	前	せん	37	信濃	しなの	52
古	いにしへ	28	括	くく	37	千曲	ちくま	52
朝	あした	28	清	きよ	37	答	いら	53
誰	た	29	盛	もり	37	寝	い	53
主	あるじ	29	雅	みやび	37	冠	かむり	53
去	い	30	生	ふ	38	曆	りやく	53
東南	たつみ	30	築	つい	38	保	ほう	53
西北	いぬゐ	30	剛	たけ	38	樹	ぎ	54
極	こく	30	生	お	38	網	あ	56
小	こう	30	外	と	40	四月	うづき	56
現	うつ	30	賢	さか	40	児	ご	56
公	く	30	痴	し	40	炭	す	56
司	つかさど	30	造	みやつこ	40	遣	や	56
財	たから	31	酔	ゑ	41	魚	お	56
刻	とき	32	翁	おきな	41	襲	かさね	56
自	よ	32	金	こがね	41	陰陽	おんみょう	56
如	ごと	32	賜	たま	41	司	つかさ	57
職	しき	32	率	ゐ	42	隙	ひま	57
為	な	32	衣	ぞ	43	前駆	さき	57
依	よ	32	継	まま	45	上達部	かんだちめ	57
腰	た	32	枝	え	45	衆	す	57
正親	おほぎ	32	文	ふん	45	歩	あり	57
邦	くに	32	春日	かすが	46	牛	ぎつ	57
凡	およ	32	陸奥	むつ	46	太	だい	57
中	うち	33	信夫	しのぶ	46	政	じょう	57
六十	むそぢ	34	陸奥	みちのく	47	隆	たか	60
比	なら	34	融	とおる	47	看	み	62
齡	よはひ	34	東	ひむがし	48	睡	ねむ	63
歳	とし	34	后	きさい	48	猶	な	63
途	どう	34	正月	むつき	48	不	ず	63
画	か	34	親王	みこ	49	便	すなは	63
法	ほ	34	疾	と	49	是	こ	63
皮	かは	34	往	い	49	為	た	63
籠	ご	34	酒	き	49	泰	やす	63

音訓一覧表 古典探究1

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
寧	やす	63	為	ため	76	内裏	うち	88
処	ところ	63	宣	のぶ	76	衛	ゑ	88
字	あざな	63	后	ごう	78	徒歩	かち	88
光	みつ	63	春	とう	78	主殿寮	とのもづかさ	88
添	ぞえ	64	面	め	80	大神	おおみかみ	88
知	とも	64	黄泉	よみ	80	六	りっ	90
明	あき	64	大臣	おとど	81	日	に	90
御	おほん	66	小舎人	こどねり	81	続	しよく	90
唐土	もろこし	66	宅	やけ	81	帥	そち	91
抛	よ	67	繁	しげ	81	周	ちか	91
前	さき	67	樹	き	81	中心	なから	92
男	をのこ	67	近衛	このえ	81	故	け	92
児	ちご	67	平	びょう	81	公	きん	94
容貌	かたち	67	侍	さぶらひ	82	任	とう	94
皇子	みこ	67	者	ざ	82	一	かず	96
蔵人	くろうど	67	和	な	83	東	あづま	98
縁	ねん	67	丙	ひのえ	83	額	ぬか	98
衆	ず	68	璽	し	83	九月	ながつき	98
参	まう	68	慶	ぎょう	83	常陸	ひたち	98
御	お	68	科	しな	83	上総	かずさ	98
淑	し	68	曲	まが	83	霧	き	99
景	げい	68	叢雲	むらくも	83	朔日	ついたち	100
高麗	こま	69	兼	かね	83	小	さ	100
人	うど	69	懐	やす	83	行	ゆき	100
朝廷	おほやけ	69	仁	ひと	83	壬生	みぶ	100
御息	みやす	70	破	や	84	太	うづ	101
典	ないし	70	安	あ	84	衝	つい	101
侍	すけ	70	倍	べ	84	資	すけ	104
内侍	ないし	70	案	あ	85	鳥羽	とば	105
妃	きさき	71	者	さ	85	織	おり	106
朝臣	あそん	72	辺	わた	85	守	かみ	108
脇	けふ	72	尺	さく	85	成	ぜい	108
四十	よそぢ	72	太政	おほき	87	落人	おちうと	108
童	わらは	72	梨	り	87	別	べち	108
乳母	めのと	72	成	しげ	87	候	さうら	108
君	き	73	泉	ぜい	87	略	らく	109
単衣	ひとえ	73	宿直	とのゐ	87	甲	かぶと	110
髪	かむ	74	義	よし	87	暮	ゆふべ	110
按察使	あぜち	74	懐	ちか	87	恭	ちか	111
消息	せうそこ	75	随	したが	87	教	のり	112

音訓一覧表 古典探究1

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
経	つね	112	御手洗	みたらし	123	検	け	142
直	ひた	112	魂	たま	123	賜	た	142
巖	いか	112	崇	す	124	現	あら	142
長刀	なぎなた	112	二月	きさらぎ	124	拷	こう	143
判	はう	112	周防	すはう	124	美	み	144
官	ぐわん	112	腕	かひな	124	大殿油	おほとなぶら	146
物具	もののぐ	113	如月	きさらぎ	125	葛	かづら	146
安芸	あき	113	良	よし	125	焼	たき	147
康	やす	113	義	のり	125	役	えん	147
剛	かう	113	积	しゃ	125	階	しな	149
奉	たてま	113	凡河内	おおしこうち	127	賢	かた	151
主	しゅう	114	恒	つね	127	掌	ないし	151
弓	ゆん	114	臣	とみ	127	侍	じょう	151
途	で	114	能	よし	127	督	かみ	151
兵	ひやう	115	城	き	127	寝	ぬ	152
嗣	つぐ	115	通	みち	127	長	をさ	152
景	かげ	115	具	とも	127	鶏	とり	152
生駒	いこま	115	猶	なほ	128	長押	なげし	152
澄	ずみ	116	訪	と	129	徹	とほ	152
戸	べ	116	近江	おうみ	129	御殿	おとど	153
浪	なみ	116	庭	ば	129	尽	ことごと	153
廿日	はつか	117	秀	ひで	129	粧	さう	153
重	しげ	117	駿河	するが	129	急	せ	154
実	ざね	118	新治	にひはり	130	生	いき	156
捕	ぶ	118	並	な	130	霊	すだま	156
了	をは	118	飯	いひ	130	霊	らう	156
出	で	118	続	つ	130	御禊	みそぎ	157
男	お	118	明	あけ	130	現	うつつ	157
柿本	かきのもと	120	冊	ぞう	131	途	ず	157
朝臣	あそみ	120	服部	はっとり	131	怨	うら	158
石	いは	120	越	えち	136	宿	すく	158
荒磯	ありそ	120	更	がへ	136	祈禱	いのり	158
妹	いも	120	終	つひ	136	念	ね	158
八十	やそ	120	是	これ	137	退	しぞ	158
万	よろづ	120	我	わが	137	帷子	かたびら	158
離	さか	120	渡部	わたなべ	138	巫女	みこ	162
江	ごう	120	商	あき	140	横	よ	162
我	あ	121	種	す	140	後妻	うはなり	162
御息所	みやすんどころ	122	帝	たい	140	炎	ほぶら	163
慶	ぎやう	123	重	かさね	142	若	にや	163

音訓一覧表 古典探究1

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
四方	よも	164	蟻螂	いぼじり	198	濟	なり	229
積	さ	165	蝸牛	かたつぶり	198	豊	ぶ	231
虹	こう	165	可愛	かわいい	199	塗籠	ぬりごめ	231
列	つら	166	烏毛虫	かはむし	199	相撲	すまい	231
将監	ぞう	166	和	かず	202	申	ま	232
二	じ	166	十月	かみなづき	204	術	ずち	232
彼方	かなた	166	洞	とう	205	座	くら	233
介	すけ	166	戯	たわぶ	208	朗	さえ	238
深	み	169	逸	そ	208	地	つち	240
鑑	かがみ	169	虚	そら	209	武人	もののふ	240
佩刀	はかし	170	入	にっ	209	尊	みこと	240
児	がつ	170	築地	ついひぢ	210	漢詩	からうた	240
副車	ひとだまひ	170	透垣	すいがい	210	命	みこと	240
受	ず	171	尊	ちか	210	神	みかみ	240
標	つくし	171	成	ひら	214	出雲	いずも	240
三	ぞう	174	左衛門	さいも	215	三十	みそ	241
頬	つら	175	後	しり	215	泥	ひぢ	241
怖	お	178	書	ふみ	215	淑	よし	241
階	はし	180	規	のり	215	薫	た	242
芳	おう	180	楽	が	216	女郎花	をみなへし	242
留	とど	185	塞	ふた	218	薄	すすき	242
大	おおい	186	天一	なか	218	庶	もろ	242
狭間	はざま	186	幸	ゆき	218	明	あきら	242
家	やか	187	東風	こち	220	敬	ぎやう	247
持	もち	187	旨	じ	220	正	じょう	250
少輔	せふ	188	駅	むまや	222	昭	じょう	250
官	つかさ	188	詩	からうた	222	半	は	252
務	つかさ	188	改	がい	222	相	すけ	252
常盤	ときは	189	乙訓	おとくに	222	備中	びつちゆう	254
経	ふ	189	腸	はらわた	223	為	し	255
因幡	いなば	189	彼処	かしこ	223	実	じち	256
領	らう	190	別	べ	224	貞	じょう	257
苛	いら	191	雷	かみ	224	足利	あしかが	257
薫	たき	191	将	まさ	226	満	みつ	257
遣水	やりみづ	192	豊	とよ	226	申	さる	257
夫	をとこ	192	下総	しもうさ	227	真	まこと	258
睦	むつ	193	太	だ	227	柿	し	260
三人	みたり	193	弟	おとと	228	虚	うそ	262
亡	う	193	優	まさ	228	白粉	おしろい	262
狭	さ	195	座	まし	229	右衛	え	262

音訓一覧表 古典探究1

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
阪	さか	263	飼	かひ	279			
春	あずま	265	獄舎	ひとや	279			
満	まろ	265	縛	いまし	279			
疎	おろそ	265	他	よそ	279			
彰	あき	266	層	ぢゆう	279			
容	なか	266	勢	せ	279			
半	なから	268	郎	ろ	280			
薬師	くすし	268	悪	わり	280			
伊達	だて	268	刻白爾	コッペル	281			
合	かふ	269	中心	マンナカ	281			
仕	つかまつ	269	恒	ガウ	281			
高砂	たかさご	269	誘	いざな	282			
柄	づか	270	以	もつ	282			
灯	どん	270	職	そく	284			
手水	てうづ	271	憲	のり	285			
眼	め	273	人	と	285			
兵衛	べえ	274	想	おも	285			
満	ま	274	史	ふみ	285			
女夫	めをと	275	太安万侶	おおのやすまろ	292			
呉	くれ	275	景	きよう	292			
織	はとり	275	純	すみ	293			
華	げ	277	十六夜	いざよい	293			
珠	たま	277	親	ちか	294			
信	のぶ	277	赤穂	あこう	294			
性	せん	277	生	うまれ	294			
三	ざぶ	278	艶	うわ	294			
双六	すごろく	278						
除	よ	278						
飾	しか	278						
画	え	278						
東都	あずま	278						
往	ゆ	279						
福	さいはひ	279						
禍	わざはひ	279						
信	し	279						
雨	さめ	279						
刃	やいば	279						
憾	うら	279						
积	と	279						
想像	おもひや	279						

音訓一覧表 古典探究2

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
狩野	かのう	〈1〉	完	まつた	5	揮	ふる	20
父	ほ	〈1〉	見	あらは	5	自	よ	20
向	きょう	〈1〉	少	わか	10	面	も	20
真	ざね	〈2〉	当	まさ	10	濁	じょく	20
参	しん	〈3〉	可	べ	10	随	したが	21
孔	く	〈3〉	所以	ゆゑん	10	憶	おも	21
達	だつ	〈3〉	画	ゑが	11	平	ぴょう	21
貞	じょう	〈3〉	毎	つね	11	哀	かな	22
観	がん	〈3〉	即	すなは	11	沙	すな	22
倍	べ	〈3〉	以	もつ	11	作	な	22
吉	き	〈3〉	須	しゆ	11	苦	はなは	22
真	まき	〈3〉	未	いま	11	停	とど	22
芝	し	〈3〉	眼	ひとみ	11	留	とど	23
適	せき	〈3〉	見	げん	11	路	みち	23
参	じん	〈3〉	字	あざな	11	従	よ	23
通	つ	〈3〉	曉	さと	12	若	も	23
鑑	がん	〈3〉	耳	のみ	12	閑	しづ	23
楽	が	〈3〉	若	ごと	12	清	しん	24
沈	しん	〈3〉	奈何	いかん	12	枚	ばい	25
集	しつ	〈3〉	墜	お	12	朗	あきら	26
奴	な	〈4〉	邪	か	12	見	まみ	29
弥	み	〈4〉	只使	たと	12	与	と	29
向	しょう	〈4〉	能	あた	12	然	しか	29
明	みん	〈4〉	壞	くづ	12	意	おも	29
北	ぺ	〈4〉	舍	せき	13	能	よ	29
京	キン	〈4〉	夫	そ	14	今者	いま	30
闍	あん	〈4〉	亡	に	14	令	し	30
荻生	おぎゅう	〈4〉	何遽	なん	14	与	とも	30
枕	ちん	2	居	を	14	者	は	30
竜	りょう	2	将	ひき	14	数	しばしば	30
鹿	ろく	2	馬	め	14	者	こと	30
鶴	かく	2	易	やす	16	起	た	30
不	ぎ	3	二	じ	16	出	い	30
洋	なだ	3	但	た	18	若	なんぢ	30
平	ひょう	3	復	ま	18	前	すす	30
不	ず	4	樹	き	18	不者	しからず	30
往	ゆ	4	須	もち	19	且	まさ	30
遇	あ	4	怨	うら	19	虜	とりこ	30
猶	な	4	度	わた	19	則	すなは	30
為	な	4	征	ゆ	20	是	ここ	31

音訓一覧表 古典探究2

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
何如	いかん	31	囚	とら	45	悪	いづ	62
止	とど	31	行	ゆくゆく	48	違	たが	63
内	い	31	非	あら	48	道	みちび	63
側	そばだ	31	与	や	48	斉	ととの	63
遂	つひ	31	清	す	48	格	いた	63
披	ひら	31	醒	さ	48	事	つか	64
視	み	31	見	る	48	畜	やしな	64
尽	ことごと	32	弾	はじ	49	免	まぬか	64
為	す	32	寧	むし	49	暇	いとま	65
賜	たま	32	濯	あら	49	運	めぐ	65
覆	ふ	32	呂	りよ	51	将	まさ	65
柄	つか	32	逆	げき	52	要	もと	65
安	いづ	33	何	ばく	52	由	よ	65
如	ごと	33	良	まこと	52	是	これ	65
勝	た	33	以	ゆゑ	52	観	み	65
敢	あ	33	況	いは	52	順	したが	67
還	かへ	33	転	うた	52	用	もつ	67
故	ことさ	33	如	も	52	陳	つら	68
窃	ひそ	33	依	よ	52	累	わづら	69
為	ため	33	朝	あした	54	蔵	をさ	69
如	ゆ	33	古	いにしへ	55	御	み	69
如今	いま	34	受	さづ	55	靈	たま	69
方	まさ	34	終	つひ	55	嘗試	こころ	70
為	た	34	固	もと	55	尼	じ	71
操	と	34	庸	なん	55	何故	なぜ	72
等	ら	34	益	ますます	56	王	のう	76
度	はか	35	扱	えら	56	縁	よ	78
間	しの	35	所謂	いはゆる	56	溪	たに	78
為	つく	38	不	しか	56	中	うち	78
蓋	おほ	38	遺	わす	56	便	すなは	78
泣	なみだ	38	若	し	57	交	こもごも	78
亡	ほろ	39	卑	ひく	57	著	ちやく	79
縦	たと	39	羞	は	57	具	つぶさ	79
購	あがな	40	嗚呼	ああ	57	何	いづ	80
頭	かうべ	40	齒	よはひ	57	延	ひ	80
羞	はぢ	42	反	かへ	57	語	つ	80
是	こ	42	六	りく	57	道	い	80
肯	あ	43	拘	かか	58	扶	よ	80
談	たん	45	乞	きつ	60	向	さき	80
念	おも	45	悪	にく	62	誌	しる	80

音訓一覧表 古典探究2

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
詣	いた	80	縦	はな	88	伐	う	106
遣	し	80	上	の	89	懐	いだ	106
規	はか	81	看	み	89	丸	たま	106
尋	つ	81	成	なり	91	弾	ゆみ	106
属	しよく	82	介	すけ	91	対	こた	106
毎	ごと	82	太宰	だざい	91	洋	ひろし	108
生	われ	82	治	おさむ	94	更	あらた	111
干	もと	83	暫	しば	94	何如	いか	111
獲	う	83	掃	はら	94	屯	たむろ	112
舍	やど	83	華	げ	94	竜	りよう	112
疾	やまひ	83	大	だ	94	宜	よろ	112
何	いくばく	83	保	ぼう	94	凡	およ	113
適	ゆ	83	安芸	あき	94	信	のぼ	113
次	やど	84	漸	やうや	95	寡	すく	113
異	あや	84	跳	をど	95	克	か	113
良	やや	84	休	や	95	抑	そもそも	113
尚	な	84	自	おのづか	95	謀	はかりごと	113
広	カン	84	豊	ぶん	95	卒	しゆつ	114
東	トン	84	去	ゆ	96	降	くだ	114
西	シー	84	難	かた	96	奔	はし	114
壮	チワン	84	残	そこな	96	悦	よろこ	114
率	おほむ	85	規	のり	96	遣	おく	114
直	た	85	昨	きのふ	97	逆	むか	115
負	そむ	85	洎第尼	サルジニア	97	予	あらかじ	115
回	かへ	85	哥塞牙	コルシカ	97	詐	いつは	115
訪	と	86	拿破崙	ナポレオン	97	著	つ	115
志	しる	86	飛鳥	あすか	99	烈	はげ	115
稚	をさな	86	入	にっ	100	衆	おほ	116
素	もと	86	直	なお	100	壞	やぶ	116
右	まさ	86	人	と	100	向者	さき	116
力	つと	86	积	ゆる	102	光	みつ	116
閱	けみ	87	患	うれ	104	雅	まさ	116
寝	や	87	劇	はげ	104	効	いた	117
蓋	けだ	87	実	まこと	104	飾	しか	118
懐	おも	87	唯	た	104	輝	てる	120
偶	たまたま	87	余	のこ	104	帰	とつ	122
誰	たれ	87	更	こもごも	104	汎	うか	124
覽	み	87	慶	よろこ	104	濟	わた	124
常	かつ	88	彰	あらは	105	宴	うたげ	124
匿	かく	88	邪	や	105	直	ただ	126

音訓一覧表 古典探究2

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
干	をか	126	某	それがし	137	負	たの	162
頻	しき	126	種	う	139	何者	なん	162
与	ため	126	需	もち	139	巖	おそ	164
還	ま	126	許	ばかり	139	罷	や	164
把	と	127	暴	には	140	肯	がへ	164
被	る	127	酬	むく	140	宣	の	165
申	の	127	貯	たくは	140	孰与	いづ	165
索	もと	127	適	た	140	顧	た	165
信	まこと	127	遺	す	145	卒	つひ	166
悪	あ	127	諸	これ	145	頃之	しばらく	168
反	かへ	127	行	や	146	上	ほとり	168
好	よ	127	寒	つめ	147	発	ひら	170
頭	ほとり	127	中	あ	147	逐	お	171
陰	くも	127	利	と	147	環	めぐ	171
湿	うるほ	127	博	ひろ	147	卒	には	171
城	き	128	易	か	148	尺	せき	171
帥	ひき	130	昔者	むかし	149	方	あ	171
禍	わざはひ	130	適	かな	149	且	しよ	172
直	とのみ	130	懲	くる	150	提	なげう	172
川合	かわい	130	雑	みな	150	廢	たふ	172
三	ぞう	130	曾	すなは	150	就	な	172
宛	ゑん	132	墾	ひら	151	武	たけ	174
太	はなは	132	壤	つち	151	死	か	176
先	ま	132	毀	こぼ	151	歳	とし	176
将	は	132	何若	いかん	151	嗣	つ	176
略	ほぼ	132	亡	な	151	幾	ほとん	176
是	か	132	応	こた	151	貌	かたち	176
唾	つばき	133	陰	みなみ	152	寧	やす	178
習	な	133	寢	い	152	食	やしな	178
執	と	133	説	よろこ	152	夫	か	179
呼	さけ	133	蓄	やしな	153	徐	おもむ	180
徑	ただ	133	貞	ただ	153	属	すす	180
畝	ぼ	135	当	ごと	155	少焉	しばらく	180
故	もと	136	情	まこと	155	縦	ほしいまま	180
女	むすめ	137	和	か	160	頃	けい	180
適	とつ	137	予	あた	161	岡	こう	180
比日	このごろ	137	均	はか	161	山羊	やぎ	180
首	かうべ	137	奏	すす	161	撃	さをさ	181
股	もも	137	衝	つ	162	予	わ	181
祝	いの	137	貪	たん	162	何為	なんす	181

音訓一覧表 古典探究2

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
困	くる	181	良	よし	196			
固	まこと	181	維	これ	196			
挟	わきばさ	182	公	きん	196			
長	とこし	182	任	とう	196			
曾	かつ	182	級	しな	196			
識	し	186	愉	たの	206			
棄	す	186	睦	むつ	206			
側	かたは	186	郎	お	206			
扶	たす	186	俊	とし	207			
承	う	186	男	お	207			
帳	とぼり	186	城	ぎ	207			
粧	よそほ	187	渡	わた	207			
列	つら	187	義	よし	207			
少	まれ	188	茂	しげ	207			
腸	はらわた	189	希	まれ	207			
旋	めぐ	189						
到	いた	189						
信	まか	189						
未	び	189						
挑	かか	190						
与共	とも	190						
教	し	190						
雷	いなづま	190						
遍	あまね	190						
差	し	191						
聞道	き	192						
睡	ねむ	192						
両	ふた	192						
将	もつ	192						
将	も	192						
会	かなら	192						
詞	ことば	193						
伝	つて	194						
魂	たま	194						
容貌	かたち	194						
給	たま	194						
帝	みかど	194						
鞞負	ゆげい	194						
唐土	もろこし	195						
御	おほん	195						

出典一覧表(古典探究)

[凡例]

*教材本文に加除訂正を加えたものについては、備考欄にその旨を示した。

*加除訂正箇所については「出典一覧表(古典探究)別紙 加除訂正一覧」を参照のこと。

*本表に記載のないものは、編集委員会による書き下ろしである。

*編集委員会並びにデザイナー・イラストレーター等によって本原稿のために独自に作成された図版・イラストについては本表では省略した。

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
	古文編							
<1>	[竹取物語]	図	「竹取物語絵巻」					国会図書館/国会図書館デジタルコレクション(本別12-3)
<1>	[紫式部]	図	伝谷文晁筆「紫式部図」					東京国立博物館/ColBase(A-12402)
<1>	『更級日記』の写本	図	『更級日記』(藤原定家筆)					宮内庁三の丸尚三館/ColBase(SZK003039)
<1>	[清少納言]	図	土佐光起筆「清少納言図」					東京国立博物館/ColBase(A-952)
<2>	[松尾芭蕉]	図	青木夙夜筆「芭蕉翁図」					東京国立博物館/ColBase(A-11500)
<2>	『古今著聞集』の写本	図	「季吟翁鞠哥文章」					パブリックドメイン/国立国文学研究資料館蔵(ヨ6-45)
<2>	『徒然草』の版本	図	『繪本徒然草』					パブリックドメイン/国立国文学研究資料館蔵(89-124)
<3>	五十日の祝い(『紫式部日記絵巻』断簡)	図	『紫式部日記絵巻断簡』					東京国立博物館/ColBase(A-12091)
<3>	琴を習う(『うつほ物語絵巻』)	図	「うつほ物語絵巻」					パブリックドメイン/九州大学附属図書館蔵(545/ウ/14)
<4>	角髪の男の童(『駒競行幸絵巻』)	図	「駒競行幸絵巻」(模本)					東京国立博物館/ColBase(A-6914)
<4>	振り分け髪の女の童(『源氏物語絵色紙帖』)	図	長次郎筆「源氏物語絵色紙帖」					京都国立博物館/ColBase(A甲16-50)
<4>	出産の様子(『法然上人絵伝』)	図	「法然上人絵傳」					東京国立博物館/ColBase(A-1599)
<4>	葬送の様子(『清水寺縁起絵巻』)	図	土佐光信筆「清水寺縁起絵巻」					東京国立博物館/ColBase(A-43-3)
<5>	装束(文官束帯、武官束帯、直衣、狩衣、唐衣と裳、単の桂と袴)	写真						風俗博物館
10	博雅の三位と鬼の笛 十訓抄	国語教材	『新編日本古典文学全集51 十訓抄』	408-410	浅見和彦	小学館	1997	無
11	『月乃百姿 朱雀門の月 博雅三位』(月岡芳年筆)	図	『月百姿 朱雀門の月 博雅三位』(月岡芳年筆)					国立国会図書館/国会図書館デジタルコレクション(寄別2-2-2-3)
12	小野篁、広才のこと 宇治拾遺物語	国語教材	『新日本古典文学大系42 宇治拾遺物語 古本説話集』	102-103	三木紀人、浅見和彦、中村義雄、小内一明	岩波書店	1990	無
12	小野篁(『古画類聚』江戸時代後期)	図	古画類聚_古画_肖像_人形服章1_菅原道真像ほか					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ(C0029418)
14	大江山 古今著聞集	国語教材	『新潮日本古典集成59 古今著聞集上』	240-241	西尾光一、小林保治	新潮社	1983	無
15	天の橋立	写真	天橋立と宮津湾					アマナイメージズ(28056007308)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
16	『高校生からの古典読本』 書影	図	『高校生からの古典読本』		岡崎真紀子・千本英史・土方洋一・前田雅之	平凡社	2012	
18	徒然草 あだし野の露消ゆる時なく	国語教材	『新編日本古典文学全集44 方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄』	86-87	神田秀夫、永積安明、安良岡康作	小学館	1995	無
18	現在のあだし野(化野念仏寺)	写真	京都・嵯峨野の化野念仏寺					アマナイメージズ(81633003497)
20	徒然草 悲田院の堯蓮上人は	国語教材	『新編日本古典文学全集44 方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄』	196-197	神田秀夫、永積安明、安良岡康作	小学館	1995	無
20	奈良絵本『つれづれ草』(江戸時代前期)	図	奈良絵本『つれづれ草』					名古屋市蓬左文庫
22	徒然草 世に従はん人は	国語教材	『新編日本古典文学全集44 方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄』	205-206	神田秀夫、永積安明、安良岡康作	小学館	1995	無
24	徒然草 花は盛りに	国語教材	『新編日本古典文学全集44 方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄』	188-190	神田秀夫、永積安明、安良岡康作	小学館	1995	無
25	奈良絵本『つれづれ草』(江戸時代前期)	図	奈良絵本『つれづれ草』					名古屋市蓬左文庫
26	兼好法師像(狩野探幽筆 江戸時代前期)	図	兼好法師像(法印生明印)					神奈川県立金沢文庫(045-701-9069)
27	玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ	国語教材	『本居宣長全集 1』	144	大野晋	筑摩書房	1968	無
28	方丈記 ゆく河の流れ	国語教材	『新日本古典文学大系39 方丈記 徒然草』	3-4	佐竹昭広、久保田淳	岩波書店	1989	無
29	『方丈記』(伝鴨長明自筆本 鎌倉時代)	図	大福光寺本「方丈記」					大福光寺
30	方丈記 安元の大火	国語教材	『新日本古典文学大系39 方丈記 徒然草』	4-6	佐竹昭広、久保田淳	岩波書店	1989	無
32	百練抄	国語教材	『国史大系 第11巻 日本紀略 百練抄』	94	黒板勝美・国史大系編修会			無
34	方丈記 日野山の閑居	国語教材	『新日本古典文学大系39 方丈記 徒然草』	18-21	佐竹昭広、久保田淳	岩波書店	1989	無
38	『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』 書影	図	『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』		小川剛生	中央公論新社	2017	
40	竹取物語 かぐや姫の昇天	国語教材	『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』	70-75	片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子	小学館	1994	有(1)
41	『竹取物語』(前田青邨筆 明治時代後期)	図	「竹取物語図」					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ(C0006947)
44	『竹取物語絵巻』(江戸時代前期)	図	「竹取物語絵巻」					国立国会図書館/国会図書館デジタルコレクション(本別12-3)
46	伊勢物語 初冠	国語教材	『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』	113-114	片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子	小学館	1994	無
46	『伊勢物語絵巻』(住吉如慶筆 江戸時代初期)	図	「伊勢物語絵巻」					東京国立博物館/ColBase(A-12341)
48	伊勢物語 月やあらぬ	国語教材	『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』	115-116	片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子	小学館	1994	無
49	伊勢物語 小野の雪	国語教材	『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』	186-187	片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子	小学館	1994	無
49	『伊勢物語絵巻』(江戸時代の模本)	図	伊勢物語絵巻(模本)_巻第2:巻中					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ(C0075864・C0075865)
51	伊勢物語 つひにゆく道	国語教材	『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』	216	片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子	小学館	1994	無
52	大和物語 姨捨	国語教材	『新編日本古典文学全集12 竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』	391-392	片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子	小学館	1994	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
54	『小説伊勢物語 業平』 書影	図	『小説伊勢物語 業平』		高樹のぶ子	日経BP	2020	
56	枕草子 すさまじきもの	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	58-61	松尾聰、永井和子	小学館	1997	有(2)
56	網代(『石山寺縁起絵巻』 鎌倉時代後期)	図	「石山寺縁起絵巻」巻5第3段					石山寺
58	轅(『現在輿車図考』 江戸時代)	図	渡辺広輝画「輿車図考」					東京国立博物館／ColBase(P-2804)
60	枕草子 中納言参り給ひて	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	196	松尾聰、永井和子	小学館	1997	無
61	『続百人一首あつま織』(勝川春章画 江戸時代中期)	図	「錦百人一首あつま織」					国立国会図書館／国会図書館デジタルコレクション (000007311671)
62	枕草子 雪のいと高う降りたるを	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	433-434	松尾聰、永井和子	小学館	1997	無
63	香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁	国語教材	『新釈漢文大系 99 白氏文集(三)』	424	岡村繁	明治書院	1988	無
63	『清少納言図』(土佐光起筆 江戸時代前期)	図	土佐光起筆「清少納言図」					東京国立博物館／ColBase(A-952)
64	『新訂 枕草子』 書影	図	『新訂 枕草子』		河添房江・津島知明校注	KADOKAWA	2024	
66	源氏物語 光源氏の誕生	国語教材	『新編日本古典文学全集20 源氏物語①』	17-20	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1994	無
67	『源氏物語図屏風』(江戸時代前期)	図	源氏物語図屏風(右隻)					徳川美術館／DNPアートコミュニケーションズ(TAM000666)
70	源氏物語 藤壺の入内	国語教材	『新編日本古典文学全集20 源氏物語①』	43-44	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1994	無
71	『源氏物語絵巻』(江戸時代前期)	図	『源氏物語絵巻』桐壺 下巻(部分)					個人蔵／徳川美術館
72	源氏物語 北山の垣間見	国語教材	『新編日本古典文学全集20 源氏物語①』	205-209	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1994	無
73	『源氏物語絵色紙帖』(長次郎筆 安土桃山時代)	図	源氏物語絵色紙帖 若紫					京都国立博物館／ColBase(A甲16-50)
76	紫式部像(土佐光起筆 江戸時代前期)	図	土佐光起「紫式部図」					石山寺
78	『源氏物語解剖図鑑』 書影	図	『源氏物語解剖図鑑』		佐藤晃子／文 伊藤ハムスター／イラスト	エクスナレッジ	2021	
80	大鏡 雲林院の菩提講	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	13-16	橘健二、加藤静子	小学館	1996	無
81	雲林院の菩提講(『大鏡絵詞』 江戸時代前期)	図	高松宮家伝来禁裏本 大かゞみ絵詞(第一上)					国立歴史民俗博物館
83	大鏡 花山天皇の出家	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	44-48	橘健二、加藤静子	小学館	1996	有(3)
86	出家する花山天皇(『大鏡絵詞』)	図	高松宮家伝来禁裏本 大かゞみ絵詞(第一下)					国立歴史民俗博物館
87	栄花物語 花山天皇の出家	国語教材	『新編日本古典文学全集31 栄花物語①』	132-135	山中裕、秋山虔、池田尚隆、福長進	小学館	1995	無
91	大鏡 弓争ひ	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	324-326	橘健二、加藤静子	小学館	1996	有(4)
92	競射(『北野天神縁起絵巻』 鎌倉時代前期)	図	「北野天神縁起絵巻」巻二 弓術に天骨を得る					北野天満宮
94	大鏡 三舟の才	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	115-116	橘健二、加藤静子	小学館	1996	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
94	『大堰川舟遊図屏風』(浮田一蕙筆 江戸時代前期)	図	「大堰川舟遊図屏風」					泉涌寺
96	『敗者たちの平安王朝 皇位継承の闇』 書影	図	『敗者たちの平安王朝 皇位継承の闇』		倉本一宏	KADOKAWA	2023	
98	更級日記 あこがれ	国語教材	『新日本古典文学大系24 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』	371	長谷川政春、今西祐一郎、伊藤博、吉岡曠	岩波書店	1989	無
99	『薬師仏に祈る』(佐多芳郎筆 昭和中期)	図	「薬師仏に祈る」					大佛次郎記念館 提供
100	更級日記 源氏の五十余巻	国語教材	『新日本古典文学大系24 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』	384-386	長谷川政春、今西祐一郎、伊藤博、吉岡曠	岩波書店	1989	無
101	唐櫃(鎌倉時代)	図	公験唐櫃					奈良国立博物館
104	建礼門院右京大夫集 なべて世のはかなきことを	国語教材	『新編日本古典文学全集47 建礼門院右京大夫集 とはずがたり』	111-112	久保田淳	小学館	1999	無
106	『更級日記』 書影	図	『更級日記』		江國香織	河出書房新社	2023	
108	平家物語 忠度の都落ち	国語教材	『新日本古典文学大系45 平家物語下』	48-50	梶原正昭、山下宏明	岩波書店	1993	無
111	都落ちする忠度(『忠度出陣図』冷泉為恭筆)	図	冷泉為恭筆「忠度出陣図」					東京国立博物館／ColBase(A-10583)
112	平家物語 能登殿最期	国語教材	『新日本古典文学大系45 平家物語下』	298-301	梶原正昭、山下宏明	岩波書店	1993	無
114	『安徳天皇縁起絵図』(伝土佐光信筆)	図	伝土佐光信筆「安徳天皇縁起絵図」					赤間神宮
116	赤間神宮 水天門	写真						赤間神宮
117	平家納経	図						厳島神社
118	『平家物語 犬王の巻』 書影	図	『平家物語 犬王の巻』		古川日出男	河出書房新社	2021	
120	万葉集 石見の海(巻二・相聞・一三一)	国語教材	『新編日本古典文学全集6 萬葉集①』	100-101	小島憲之、木下正俊、東野治之	小学館	1994	無
121	万葉集 石見のや(巻二・相聞・一三二)	国語教材	『新編日本古典文学全集6 萬葉集①』	101	小島憲之、木下正俊、東野治之	小学館	1994	無
121	万葉集 笹の葉は(巻二・相聞・一三三)	国語教材	『新編日本古典文学全集6 萬葉集①』	101-102	小島憲之、木下正俊、東野治之	小学館	1994	無
121	古今和歌集 春霞立つを(巻第一・春上・三一)	国語教材	『新編日本古典文学全集11 古今和歌集』	41	小沢正夫、松田成穂	小学館	1994	無
121	古今和歌集 木の間より(巻第四・秋上・一八四)	国語教材	『新編日本古典文学全集11 古今和歌集』	69	小沢正夫、松田成穂	小学館	1994	無
121	『万葉集』(平安時代末期の写本)	図	元暦校本万葉集 巻二(古河本)					東京国立博物館／ColBase(B-2530-8)
122	古今和歌集 むすぶ手の(巻第八・離別・四〇四)	国語教材	『新編日本古典文学全集11 古今和歌集』	171	小沢正夫、松田成穂	小学館	1994	無
122	古今和歌集 うたた寝に(巻第十二・恋二・五五三)	国語教材	『新編日本古典文学全集11 古今和歌集』	221	小沢正夫、松田成穂	小学館	1994	無
122	後撰和歌集 わびぬれば(巻第十三・恋五・九六〇)	国語教材	『新日本古典文学大系6 後撰和歌集』	282	片桐洋一	岩波書店	1990	無
123	拾遺和歌集 春来てぞ(巻第十六・雑春・一〇一五)	国語教材	『新日本古典文学大系7 拾遺和歌集』	290	小町谷照彦	岩波書店	1990	無
123	拾遺和歌集 八重葎(巻第三・秋・一四〇)	国語教材	『新日本古典文学大系7 拾遺和歌集』	42	小町谷照彦	岩波書店	1990	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
123	後拾遺和歌集 もの思へば(巻第二十・雑六・一一六二)	国語教材	『新日本古典文学大系8 後拾遺和歌集』	378	久保田淳、平田喜信	岩波書店	1994	無
124	千載和歌集 五月雨は(巻第三・夏・一八三)	国語教材	『新日本古典文学大系10 千載和歌集』	63	片野達郎、松野陽一	岩波書店	1993	無
124	千載和歌集 春の夜の(巻第十六・雑上・九六四)	国語教材	『新日本古典文学大系10 千載和歌集』	289	片野達郎、松野陽一	岩波書店	1993	無
124	新古今和歌集 春の夜の(巻第一・春上・三八)	国語教材	『新編日本古典文学全集43 新古今和歌集』	32	峯村文人	小学館	1995	無
125	新古今和歌集 志賀の浦や(巻第六・冬・六三九)	国語教材	『新編日本古典文学全集43 新古今和歌集』	189	峯村文人	小学館	1995	無
125	山家集 願はくは(上・春・七七)	国語教材	『日本古典文学大系29 山家集 金槐和歌集』	32	風巻景次郎	岩波書店	1961	無
125	西行庵(奈良県吉野郡吉野山)	写真	西行庵					アマナイメージズ(27108000026)
126	金槐和歌集 箱根路を(巻之下・雑部・五九三)	国語教材	『日本古典文学大系29 山家集 金槐和歌集』	408	風巻景次郎、小島吉雄	岩波書店	1961	無
128	水無瀬三吟百韻	国語教材	『新編日本古典文学全集61 連歌集 俳諧集』	73-75	金子金治郎、暉峻康隆、雲英末雄、加東定彦	小学館	2001	無
134	霞さへまだらに立つやとらの年	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	36	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
134	世の中や蝶々とまれかくもあれ	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	54	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
134	大晦日定めなき世の定めかな	国語教材	『新編日本古典文学全集72 近世俳句集』	60	雲英末雄ほか	小学館	2001	無
134	行水も日まぜになりぬ虫のこゑ	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	70	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
134	凧の果てはありけり海の音	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	73	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
135	枯れ枝に鳥のとまりけり秋の暮れ	国語教材	『新編日本古典文学全集70 松尾芭蕉集①』	70	井本農一ほか	小学館	1995	無
135	海暮れて鴨の声ほのかに白し	国語教材	『新編日本古典文学全集70 松尾芭蕉集①』	118	井本農一ほか	小学館	1995	無
135	古池や蛙飛びこむ水のおと	国語教材	『新編日本古典文学全集70 松尾芭蕉集①』	146	井本農一ほか	小学館	1995	無
135	梅が香にのつと日の出る山路かな	国語教材	『新編日本古典文学全集70 松尾芭蕉集①』	456	井本農一ほか	小学館	1995	無
135	芭蕉自筆短冊(江戸時代前期)	図	短冊「枯朶にからすの…」					出光美術館
136	越後屋にきぬさく音や衣更	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	87	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
136	梅一輪一りんほどのあたたかさ	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	95	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
136	応々といへどたたくや雪の門	国語教材	『日本古典文学大系92 近世俳句俳文集』	100	阿部喜三男ほか	岩波書店	1964	無
136	月天心貧しき町を通りけり	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	142	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
136	凧きのふの空のありどころ	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	59	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
136	牡丹散りてうち重なりぬ二三片	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	125	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
136	五月雨や大河を前に家二軒	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	91	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
136	これがまあ終の栖か雪五尺	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	355/2	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
136	『花見句画賛』(与謝蕪村筆 江戸時代中期)	図	与謝蕪村筆「花見句画賛」					逸翁美術館
137	このやうな末世を桜だらけかな	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	333/4	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
137	瘦蛙まけるな一茶是に有り	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	331/3	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
137	明月を取ってくれろと泣く子かな	国語教材	『日本古典文学大系58 蕪村集 一茶集』	459/14	暉峻康隆ほか	岩波書店	1959	無
138	『和歌とは何か』 書影	図	『和歌とは何か』		渡部泰明	岩波書店	2009	
140	四の宮河原地蔵のこと 宇治拾遺物語	国語教材	『新日本古典文学大系42 宇治拾遺物語 古本 説話集』	131-132	三木紀人、浅見和彦、中村 義雄、小内一明	岩波書店	1990	無
141	地蔵菩薩立像(鎌倉時代)	写真	地蔵菩薩立像					奈良国立博物館／ColBase (1203-0)
142	小大進、北野の神助を被ること 古今著聞集	国語教材	『新潮日本古典集67 古今著聞集上』	229-231	西尾光一、小林保治	新潮社	1983	無
144	『夢語り・夢解きの中世』 書影	図	『夢語り・夢解きの中世』		酒井紀美	吉川弘文館	2021	
146	枕草子 宮に初めて参りたるころ	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	306-308	松尾聰、永井和子	小学館	1997	無
147	室内の様子(『春日権現験記絵』高階隆兼筆 鎌倉時代)	図	高階隆兼筆「春日権現験記絵」					皇居三の丸尚蔵館／ColBase (SZK002943)
150	枕草子 二月つごもりごろに	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	209-210	松尾聰、永井和子	小学館	1997	無
151	清涼殿(京都府京都市)	写真	京都御所 清涼殿					PIXTA(12523457)
152	枕草子 大納言殿参り給ひて	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	446-448	松尾聰、永井和子	小学館	1997	無
154	『枕草子のたぐらみ「春はあけぼの」に秘められた 思い』 書影	図	『枕草子のたぐらみ「春はあけぼの」に秘められ た思い』		山本淳子	朝日新聞出版	2017	
156	源氏物語 物の怪の出現	国語教材	『新編日本古典文学全集21 源氏物語②』	35-40	阿部秋生、秋山虔、今井源 衛、鈴木日出男	小学館	1995	有(5)
157	『車争図屏風』(狩野山楽筆 江戸時代)	図	狩野山楽筆「車争図屏風」					東京国立博物館／ColBase(A- 10129)
159	六条御息所(『焰』 上村松園筆 大正時代)	図	「焰」					東京国立博物館／ColBase(A- 11098)
162	能「葵上」	国語教材	『新編日本古典文学全集59 謡曲集②』	278-280	小山弘志、佐藤健一郎	小学館	1998	無
163	前シテ(泥眼の面)	写真						能楽協会
163	後シテ(般若の面)とワキ	写真						能楽協会
164	源氏物語 心づくしの秋風	国語教材	『新編日本古典文学全集21 源氏物語②』	198-203	阿部秋生、秋山虔、今井源 衛、鈴木日出男	小学館	1995	有(6)
165	『源氏物語手鑑』(土佐光吉筆 安土桃山時代)	図	源氏物語手鑑 須磨一					和泉市久保忽記念美術館
168	源氏物語 明石の君の苦悩	国語教材	『新編日本古典文学全集21 源氏物語②』	432-434	阿部秋生、秋山虔、今井源 衛、鈴木日出男	小学館	1995	無
169	『源氏物語手鑑』(土佐光吉筆 安土桃山時代)	図	源氏物語手鑑 薄雲					和泉市久保忽記念美術館

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
172	高麗人の観相を受ける光源氏(『源氏物語絵色紙帖』)	図	源氏物語絵色紙帖 桐壺					京都国立博物館／ColBase(A甲16-1)
174	源氏物語 女三の宮の降嫁	国語教材	『新編日本古典文学全集23 源氏物語④』	63-68	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1996	有(7)
174	六条院平面図(池浩三の復元図をもとに作成)	地図	『『源氏物語』と平安京』			おうふう	1994	
178	源氏物語 柏木の垣間見	国語教材	『新編日本古典文学全集23 源氏物語④』	140-142	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1996	無
179	源氏物語絵色紙帖(土佐光吉筆 安土桃山時代)	図	源氏物語絵色紙帖 若菜上					京都国立博物館／ColBase(A甲16-34)
182	源氏物語 萩の上露	国語教材	『新編日本古典文学全集23 源氏物語④』	503-506	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1996	無
183	『源氏物語絵巻』(平安時代後期)	図	源氏物語絵巻 御法					五島美術館
186	大君と中の君を垣間見る薫(『源氏物語絵色紙帖』)	図	源氏物語絵色紙帖 橋姫					京都国立博物館／ColBase(A甲16-45)
187	源氏物語 浮舟と匂宮	国語教材	『新編日本古典文学全集25 源氏物語⑥』	148-151	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1998	無
188	浮舟(佐多芳郎筆 昭和中期)	図	「浮舟」					大佛次郎記念館 提供
192	源氏物語 小野の里訪問	国語教材	『新編日本古典文学全集25 源氏物語⑥』	383-385	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1998	無
196	堤中納言物語 虫愛づる姫君	国語教材	『新日本古典文学大系26 堤中納言物語 とりかへばや物語』	20-22	大槻修、今井源衛、森下純昭、辛島正雄	岩波書店	1992	無
199	愛づー 虫愛づる姫君(中村桂子)	国語教材	『ゲノムが語る生命』	179-187	中村桂子	集英社	2004	有(8)
201	[中村桂子 顔写真]	写真						本人提供
202	『源氏物語を読む』 書影	図	『源氏物語を読む』		高木和子	岩波書店	2021	
204	蜻蛉日記 うつろひたる菊	国語教材	『新日本古典文学大系24 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』	46-47	長谷川政春、今西祐一郎、伊藤博、吉岡曠	岩波書店	1989	無
206	拾遺和歌集	国語教材	『新日本古典文学大系7 拾遺和歌集』	261	小町谷照彦	岩波書店	1990	無
206	大鏡	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	250	橘健二、加藤静子	小学館	1996	無
208	蜻蛉日記 鷹を放つ	国語教材	『新日本古典文学大系24 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』	118-119	長谷川政春、今西祐一郎、伊藤博、吉岡曠	岩波書店	1989	無
209	『春日権現霊験記』(昭和時代初期の模本)	図	春日権現霊験記(模本)					東京国立博物館／DNPアートコミュニケーションズ(C0029413)
210	和泉式部日記 夢よりもはかなき世の中を	国語教材	『新編日本古典文学全集26 和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』	17-19	藤岡忠美、中野幸一、犬養廉、石井文夫	小学館	1994	無
213	紫式部日記 秋のけはひ	国語教材	『新日本古典文学大系24 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』	253	長谷川政春、今西祐一郎、伊藤博、吉岡曠	岩波書店	1989	無
213	土御門殿の舟遊び(『紫式部日記絵詞』鎌倉時代)	図	紫式部日記絵詞					藤田美術館
214	彰子の子である敦成親王の生誕五十日を祝う場面(『紫式部日記絵巻』断簡 鎌倉時代)	図	「紫式部日記絵巻断簡」					東京国立博物館／ColBase(A-12091)
215	紫式部日記 日本紀の御局	国語教材	『新日本古典文学大系24 土佐日記 蜻蛉日記 紫四部日記 更級日記』	314-315	長谷川政春、今西祐一郎、伊藤博、吉岡曠	岩波書店	1989	無
217	中宮彰子に『白氏文集』を進講する紫式部(『紫式部日記絵詞』鎌倉時代)	図	紫式部日記絵詞(蜂須賀家本) 紫式部、中宮に「新楽府」を進講					個人蔵

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
218	『紫式部 女房たちの宮廷生活』 書影	図	『紫式部 女房たちの宮廷生活』		福家俊幸	平凡社	2023	
220	大鏡 道真と時平	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	73-91	橘健二、加藤静子	小学館	1996	有(9)
221	『北野天神縁起絵巻』(鎌倉時代前期)	図	「北野天神縁起絵巻」巻三 紅梅殿別離					北野天満宮
224	『北野天神縁起絵巻』(鎌倉時代前期)	図	「北野天神縁起絵巻」巻六 清涼殿落雷					北野天満宮
225	大宰府政庁跡(福岡県太宰府市)	写真						アマナイメーجز
226	石にかみつく平将門の首(『江戸の花名勝絵』江戸時代後期)	図	江戸の花名勝会 か 八番組 尾上菊五郎/神田明神の祭/神田(江戸の花大錦名勝絵)					国会図書館デジタルコレクション(寄別2-8-2-5)
226	怨霊となった崇徳院と西行(『雨月物語』「白峰」)	図	『雨月物語』4ウ・5オ					パブリックドメイン/国文学研究資料館蔵(99-125-1,2)
226	怨霊として描かれた道真(『神霊菅原道真实記』豊原国周筆 明治時代中期)	図	神霊菅原道真实記					浅井コレクション/DNPアートコミュニケーションズ(ACI011X0097)
228	大鏡 最後の除目	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	224-226	橘健二、加藤静子	小学館	1996	無
231	大鏡 肝試し	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	318-321	橘健二、加藤静子	小学館	1996	無
234	戻ってきた道隆と道兼(『大鏡絵詞』)	図	高松宮家伝来禁裏本 大かゝみ絵詞(第七上)					国立歴史民俗博物館
235	大鏡 道長と詮子	国語教材	『新編日本古典文学全集34 大鏡』	328-330	橘健二、加藤静子	小学館	1996	無
237	藤原道長(『紫式部日記絵巻』鎌倉時代)	図						藤田美術館
238	『平安貴族サバイバル』 書影	図	『平安貴族サバイバル』		木村朗子/芦野公平	笠間書院	2022	
240	古今和歌集 仮名序 やまと歌は	国語教材	『新日本古典文学大系5 古今和歌集』	4-5	小島憲之、新井栄蔵	岩波書店	1989	無
242	俊頼髓脳 沓冠折句の歌	国語教材	『新編日本古典文学全集87 歌論集』	21-22	橋本不美男、有吉保、藤平春男	小学館	2002	無
244	無名草子 清少納言	国語教材	『新編日本古典文学全集40松浦宮物語 無名草子』	266-268	樋口芳麻呂、久保木哲夫	小学館	1999	無
246	無名草子 紫式部	国語教材	『新編日本古典文学全集40松浦宮物語 無名草子』	276-278	樋口芳麻呂、久保木哲夫	小学館	1999	無
248	無名抄 深草の里	国語教材	『日本古典文学大系65 歌論集 能楽論集』	73-74	久松潜一、西尾実	岩波書店	1961	無
250	毎月抄 心と詞	国語教材	『新編日本古典文学全集87 歌論集』	498-499	橋本不美男、有吉保、藤平春男	小学館	2002	無
252	正徹物語 一字の違ひ	国語教材	『日本古典文学大系65 歌論集 能楽論集』	180-181	久松潜一、西尾実	岩波書店	1961	無
254	冷泉家時雨亭文庫(京都府京都市)	写真	京都、今出川通の冷泉家表門					PIXTA(98207546)
255	風姿花伝 下手は上手の手本	国語教材	『新編日本古典文学全集88 連歌論集 能楽論集 俳論集』	238-240	奥田勲校、表章、堀切実、復本一郎	小学館	2001	無
256	翁面(室町時代)	写真	能面 翁					東京国立博物館/ColBase(C-1528)
258	去来抄 行く春を	国語教材	『新編日本古典文学全集88 連歌論集 能楽論集 俳論集』	429	奥田勲校、表章、堀切実、復本一郎	小学館	2001	無
259	去来抄 岩鼻や	国語教材	『新編日本古典文学全集88 連歌論集 能楽論集 俳論集』	442	奥田勲校、表章、堀切実、復本一郎	小学館	2001	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
260	向井去来像(『俳諧三十六歌僊』 与謝蕪村筆)	図	俳諧三十六歌僊					江東区芭蕉記念館／江東区
261	難波土産 虚実皮膜の間	国語教材	『日本古典文学大系50 近松浄瑠璃集下』	357-359	守随憲治、大久保忠国	岩波書店	1959	有(10)
263	源氏物語玉の小櫛 もののあはれ	国語教材	『日本古典文学大系94 近世文学論集』	101-102	中村幸彦	岩波書店	1966	無
266	『本居宣長「もののあはれ」と「日本」の発見』 書影	図	『本居宣長「もののあはれ」と「日本」の発見』		先崎彰容	新潮社	2024	
268	西鶴諸国ばなし 大晦日は合はぬ算用	国語教材	『新編日本古典文学全集67 井原西鶴集② 西鶴諸国ばなし 本朝二十不孝 男色大鑑』	28-33	宗政五十緒、松田修、暉峻康隆	小学館	1996	無
271	『西鶴諸国ばなし』挿絵(江戸時代前期の版本)	図	『西鶴諸国はなし』					立教大学池袋図書館／国書データベース(DIG-RKRP-00016)
273	貧の意地	国語教材	『太宰治全集第六巻』	303-304	太宰治	筑摩書房	1990	無
274	曾根崎心中 道行	国語教材	『新編日本古典文学全集75 近松門左衛門集②』	36-38	鳥越文蔵、山根為雄、長友千代治、阪口弘之、大橋正叔	小学館	1998	無
275	人形浄瑠璃文楽『曾根崎心中』	写真	『曾根崎心中』天神森の段(吉田簀介・桐竹勘十郎)					国立文楽劇場 (YDR0100127500350)
276	太夫と三味線	写真	国立劇場小劇場 第191回文楽公演『一谷嫩軍記』熊谷陣屋の段(豊竹咲太夫、鶴澤燕三)					国立劇場
278	蔦屋重三郎の本屋「耕書堂」(葛飾北斎画『画本東都遊』)	図	画本東都遊					国立国会図書館／国会図書館デジタルコレクション(か-46)
279	南総里見八犬伝	国語教材	『南総里見八犬伝(二)』	195-196	小池藤五郎	岩波書店	1990	無
279	『八犬伝之内芳流閣』(歌川国芳筆 江戸時代後期)	図	八犬伝之内芳流閣					東京国立博物館／DNPアートコミュニケーションズ(C0032027)
280	東海道中膝栗毛	国語教材	『新編日本古典文学全集81 東海道中膝栗毛』	203-204	中村幸彦	小学館	1995	無
280	[草双紙『桃太郎昔語』西村重信画]	図	『桃太郎昔語』					都立中央図書館(025-0044-023)
281	刻白爾天文図解	国語教材	『司馬江漢全集 第三巻』	247	司馬江漢	八坂書房	1994	無
281	[草双紙『桃太郎昔語』西村重信画]	図	『桃太郎昔語』					都立中央図書館(025-0044-023)
281	[天文楽所『刻白爾天文図解』司馬江漢]	図	『刻白爾天文圖解』					パブリックドメイン／九州大学附属図書館蔵(DIG-KYUS-10103)
282	『阿蘭陀西鶴』 書影	図	『阿蘭陀西鶴』		朝井まかて	講談社	2016	
284	『おもしろ古典教室』 書影	図	『おもしろ古典教室』		上野誠	筑摩書房	2006	
284	『平安女子の楽しい! 生活』 書影	図	『平安女子の楽しい! 生活』		川村裕子	岩波書店	2016	
284	『日本語の古典』 書影	図	『日本語の古典』		山口仲美	岩波書店	2011	
284	『古文の読みかた』 書影	図	『古文の読みかた』		藤井貞和	岩波書店	1984	
284	『古典文法質問箱』 書影	図	『古典文法質問箱』		大野晋	KADOKAWA	1998	
284	『日本文学の古典50選』 書影	図	『日本文学の古典50選』		久保田淳	KADOKAWA	2020	
284	『知ってる古文の知らない魅力』 書影	図	『知ってる古文の知らない魅力』		鈴木健一	講談社	2006	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
284	『詳解 有職装束の世界』 書影	図	『詳解 有職装束の世界』		八條忠基	KADOKAWA	2020	
285	『連句の教室 ことばを付けて遊ぶ』 書影	図	『連句の教室 ことばを付けて遊ぶ』		深沢眞二	平凡社	2013	
285	『すらすら読める風姿花伝』 書影	図	『すらすら読める風姿花伝』		林望	講談社	2018	
285	『花よりも花の如く 1』 書影	図	『花よりも花の如く 1』		成田美名子	白泉社	2003	
285	『あさきゆめみし 新装版 1』 書影	図	『あさきゆめみし 新装版 1』		大和和紀	講談社	2021	
285	『虫めづる姫君 堤中納言物語』 書影	図	『虫めづる姫君 堤中納言物語』		蜂飼耳 訳	光文社	2015	
285	『とりかえ・ばや 1』 書影	図	『とりかえ・ばや 1』		さいとうちほ	小学館	2012	
285	『ぼおるぺん古事記 1』 書影	図	『ぼおるぺん古事記 1』		こうの史代	平凡社	2012	
285	『八犬伝』 書影	図	『八犬伝』		山田風太郎	KADOKAWA	2022	
285	『殴り合う貴族たち』 書影	図	『殴り合う貴族たち』		繁田信一	KADOKAWA	2008	
(2)	寝殿造り	写真						京都文化博物館
(2)	寝殿の内部	写真	寝殿の内部					池浩三
(3)	室内の調度	写真	中世初期公家調度 復元					国立歴史民俗博物館(H-306)
(3)	文台と硯箱	写真						風俗博物館
(3)	脇息	写真						風俗博物館
(3)	源氏物語図(冷泉為恭筆)	図	冷泉為恭筆「源氏物語図」					MOA美術館
	漢文編							
<1>	孔子像	図	「孔子行教像」					曲阜市文物局/CPCフォト(JB-17)
<1>	漢武帝像(狩野探幽筆)	図	狩野探幽筆「漢武帝像」					東京国立博物館/ColBase(A-1266)
<2>	菅原道真像(『束帯天神像』)	図	「束帯天神像」					九州国立博物館/ColBase(A112)
<2>	諸葛亮像	図	伊川模 墨庄/孔明図					東京国立博物館/ColBase(A-6306)
<2>	李白像	図	李白					中国国家博物館/CPCフォト(YS-74938)
<2>	韓愈像	図	韓愈					CPCフォト(PT-12003)
<2>	柳宗元像	図	柳宗元					CPCフォト(PT-12005)
<2>	「酒虫」挿絵(『聊齋志異』)	図	『詳註聊齋志異図詠』					個人蔵
<5>	華清池	写真	西安(陝西省)華清池					サイネット(CPC110001564)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
<5>	玉門関	写真	玉門関					フォトライブラリー(1710892)
<5>	烏江	写真	和県(安徽省) 烏江					CPCフォト(YS-2803)
<5>	赤壁	写真	赤壁鎮(湖北省)赤壁 6月					CPCフォト(YS-52214)
<5>	廬山	写真	廬山(江西省)香炉峰					サイネット(CPC110011510)
10	漱石枕流	国語教材	『新釈漢文大系 第78巻 世説新語(下)』	982	目加田誠	明治書院	1978	無
11	画竜点睛	国語教材	『歴代名画記』	358	小野勝年	岩波書店	1938	有(11)
12	杞憂	国語教材	『新釈漢文大系 第22巻 列子』	48	小林信明	明治書院	1967	無
14	塞翁馬	国語教材	『新釈漢文大系 第62巻 淮南子』	1043	楠山春樹	明治書院	1988	無
16	『四字熟語で始める漢文入門』 書影	図	『四字熟語で始める漢文入門』		円満字二郎	筑摩書房	2024	
18	鹿柴	国語教材	『唐詩選』	180	石川忠久	東方書店	1989	無
18	宿建德江	国語教材	『唐詩三百首詳解 上』	56	田部井文雄	大修館書店	1988	無
19	涼州詞	国語教材	『唐詩選』	234	石川忠久	東方書店	1898	無
19	春夜	国語教材	『蘇軾詩集 第八冊』	2592	孔凡禮	中華書局	2012	無
20	送友人	国語教材	『唐詩選』	68	石川忠久	東方書店	1989	無
20	李白吟行図(梁楷筆 南宋代)	図	梁楷筆「李白吟行図軸」					東京国立博物館/ColBase(TA-164)
21	送僧帰日本	国語教材	『唐詩三百首』	23-24	陳婉俊	商務印書館	1961	無
21	在唐憶本郷	国語教材	『日本古典文学大系69 懐風藻 文華秀麗集 本朝文粹』	97	小島憲之	岩波書店	1964	無
22	登高	国語教材	『唐詩選』	166	石川忠久	東方書店	1989	無
23	遊山西村	国語教材	『宋詩選註』	197	錢鐘書	新文豊出版公司	1989	無
23	浙江省の山村	写真	浙江省紹興 会稽山					CPCフォト(YS-55775)
26	『漢詩の流儀 その真髓を味わう』 書影	図	『漢詩の流儀 その真髓を味わう』		松原朗	大修館書店	2014	
29	鴻門之会	国語教材	『新釈漢文大系 第39巻 史記(二)』	455-461	吉田賢抗	明治書院	1973	無
30	玉玦	写真	玉玦 崧澤文化					上海博物館/CPCフォト(JB-227)
32	『鴻門会』(安田靱彦 1955年)	図	安田靱彦作「鴻門会」					東京国立近代美術館/DNPアートコミュニケーション(NMT000018)
32	卮	写真	銀扣雲気紋漆卮 前漢代					巢湖博物館/CPCフォト(JB-234a)
37	四面楚歌	国語教材	『新釈漢文大系 第39巻 史記(二)』	493-494	吉田賢抗	明治書院	1973	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
38	『項羽』(安田鞞彦 1916年)	図	安田鞞彦作「項羽」					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーション(C0050161)
39	項王最期	国語教材	『新釈漢文大系 第39巻 史記(二)』	498-500	吉田賢抗	明治書院	1973	有(12)
42	題烏江亭	国語教材	『中国詩人選 6』	198-199	市野沢寅雄	集英社	1967	無
43	烏江亭	国語教材	『四部叢刊初編縮本』	218	王安石	台湾商務印書館	1975	無
45	司馬遷像	図	『三才図会』					国立公文書館(別029-0001)
45	『史記』「伯夷列伝」部分	図	『史記』					国立公文書館(279-0010)
46	『項羽と劉邦 上』 書影	図	『項羽と劉邦 上』		司馬遼太郎	新潮社	1984	
48	漁父辞	国語教材	『新釈漢文大系 第16巻 古文真宝(後集)』	12-14	星川清孝	明治書院	1963	無
51	『漁夫図』(張路筆 明代)	図	「漁夫図」					護国寺(東京国立博物館蔵)/DNPアートコミュニケーション(E0117377)
52	春夜宴桃李園序	国語教材	『新釈漢文大系 第16巻 古文真宝(後集)』	101-102	星川清孝	明治書院	1963	無
53	『桃李園図』(仇英筆 明代)	図	仇英「桃李園図軸」					京都国立博物館/ColBase
54	日本永代蔵	国語教材	『新編日本古典文学全集68 井原西鶴集③』	23	谷脇理史、神保五彌、暉峻康隆	小学館	1996	無
54	奥の細道	国語教材	『新編日本古典文学全集71 松尾芭蕉集②』	75	井本農一、久富哲雄、松村友次、堀切実	小学館	1997	無
55	師説	国語教材	『新釈漢文大系 第70巻 唐宋八大家文読本(一)』	48-50	星川清孝	明治書院	1976	有(13)
58	韓愈像	図	韓愈(歴代聖賢半身像)					台北故宮博物院/CPCフォト(CTm-104b)
60	『中国名文選』 書影	図	『中国名文選』		興膳宏	岩波書店	2008	
62	子曰富与貴	国語教材	『新釈漢文大系 第1巻 論語』	90	吉田賢抗	明治書院	1960	無
63	子曰道之以政	国語教材	『新釈漢文大系 第1巻 論語』	39	吉田賢抗	明治書院	1960	無
63	子貢問政	国語教材	『新釈漢文大系 第1巻 論語』	265	吉田賢抗	明治書院	1960	無
64	無恒産而有恒心者	国語教材	『新釈漢文大系 第4巻 孟子』	40	内野熊一郎	明治書院	1962	有(14)
65	不忍人之心	国語教材	『新釈漢文大系 第4巻 孟子』	110	内野熊一郎	明治書院	1962	無
67	人之性悪	国語教材	『全釈漢文大系 第8巻 荀子 下』	228	金谷治ほか	集英社	1974	無
68	大道廃有仁義	国語教材	『中国の古典2 老子・列子』	10	麦谷邦夫	学習研究社	1983	無
68	小国寡民	国語教材	『中国の古典2 老子・列子』	94	麦谷邦夫	学習研究社	1983	無
69	曳尾於塗中	国語教材	『中国の古典6 莊子 下』	11	池田知久	学習研究社	1986	無
70	渾沌	国語教材	『中国の古典5 莊子 上』	49	池田知久	学習研究社	1983	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
72	『莊子』と素粒子(湯川秀樹)	国語教材	『本の中の世界』	2-7	湯川秀樹	岩波書店	1963	有(15)
74	[湯川秀樹 顔写真]	写真						近代日本人の肖像／国会図書館 デジタルアーカイブ
75	『論語』の版本(江戸時代後期)	図	『論語古義』(正徳2年版本)					個人蔵
76	『論語』書影	図	『論語』		土田健次郎	筑摩書房	2023	
78	桃花源記	国語教材	『陶淵明集校箋』	275-276	楊勇	正文書局	1987	無
79	『武陵桃源図』(渡辺玄対筆 江戸時代)	図	渡辺玄対「武陵桃源図」					東京国立博物館／ColBase(A-1435)
80	『桃源仙境図』(仇英筆 明代)	図	桃源仙境図(仇英)					天津芸術博物館／CPCフォト(JB-211b)
82	人虎伝	国語教材	『国訳漢文大成 文学部第12巻 晋唐小説』	196-199	鶴田久作	東洋文化協會	1955	有(16)
90	「猛虎図」(中島春城筆)	図	中島春城作『猛虎図』					神奈川近代文学館(N06-410-1989)
91	「人虎伝」	図	『漢代叢書』					国立公文書館(子272-0001)
91	「山月記」初出の雑誌	図	『文學界』			文学界社雑誌社	1942	日本近代文学館(P0003392)
92	『李陵・山月記』書影	図	『李陵・山月記』		中島敦	新潮社	2013	
94	自詠	国語教材	『日本古典文学大系72 菅家文章 菅家後集』	477	川口久雄	岩波書店	1966	無
94	山茶花	国語教材	『五山文学全集 第二巻』	53	上村観光	同朋社	1973	無
95	泊天草洋	国語教材	『新日本古典文学大系66 菅茶山 頼山陽 詩集』	195	水田紀久、頼惟勤、直井文子	岩波書店	1996	無
95	桂林荘雜詠示諸生	国語教材	『日本古典文学大系89 五山文学集・江戸漢詩集』	316	山岸徳平	岩波書店	1966	無
96	送夏目漱石之伊予	国語教材	『子規全集 第八巻 漢詩 新体詩』	211	正岡子規	講談社	1976	無
96	無題	国語教材	『漱石詩集』	7	夏目漱石	岩波書店	1919	無
97	航西日記	国語教材	『鷗外全集 第三十五巻』	82	森林太郎	岩波書店	1975	有(17)
100	『知っておきたい日本の漢詩 偉人たちの詩と心』書影	図	『知っておきたい日本の漢詩 偉人たちの詩と心』		宇野直人	勉誠出版	2018	
102	不死之薬	国語教材	『全釈漢文大系20 韓非子上』	587	小野沢精一	集英社	1975	有(18)
104	三横	国語教材	『新釈漢文大系 第78巻 世説新語(下)』	787	目加田誠	明治書院	1978	有(19)
106	不顧後患	国語教材	『和刻本諸子大成 第三輯』	73-74	長澤規矩也	汲古書院	1975	無
108	『中国古典「一日一話」』書影	図	『中国古典「一日一話」 世界が学んだ人生の“参考書”』		守屋洋	三笠書房	2003	
110	曹操・劉備・孫権	写真	川本喜八郎作 人形劇「三国史」					川本プロダクション 提供
111	乱世之姦雄	国語教材	『標註十八史略読本上』	41	下森来治	興文社	1893	無

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
112	三往乃見	国語教材	『二十四史校点本三国志3』	912	陳寿	中華書局	1959	無
112	『草廬三顧図』(狩野応信筆 江戸～明治時代)	図	狩野応信筆「草廬三顧図」					立花家資料館
114	進遇於赤壁	国語教材	『標註十八史略読本上』	46-48	下森来治	興文社	1893	有(20)
115	蒙衝	図	『武経総要』					国立公文書館(子011-0001)
116	『戦艦炎上』(安野光雅筆 2008年)	図	安野光雅作「繪本 三国志」					安野光雅美術館
117	股肱之力	国語教材	『標註十八史略読本上』	52	下森来治	興文社	1893	無
119	『繪本通俗三国志』より葛飾戴斗の挿画	図	『繪本通俗三国志』三編之一					弘前市立博物館
119	神田明神山車(関羽山車)模型	写真						江戸東京博物館
119	関帝廟(神奈川県横浜市)	写真	横浜関帝廟 夜景					PIXTA(90434655)
120	『三国志 1』 書影	図	『三国志 1』		横山光輝	潮出版社	1974	
122	桃夭	国語教材	『漢詩大系 第一巻 詩経 上』	44-46	高田眞治	集英社	1966	無
123	生年不滿百	国語教材	『新釈漢文大系 第15巻 文選(詩編)下』	568	内田泉之助、網祐次	明治書院	1964	無
123	『西園雅集図』(趙孟頫筆 元代)	図	西園雅集図 元代 趙孟頫					台北故宮博物院蔵/CPCフォト(001935)
124	秋風辞	国語教材	『新釈漢文大系 第16巻 古文真宝(後集)』	10	星川清孝	明治書院	1963	無
125	飲酒	国語教材	『陶淵明集全釈』	176	田部井文雄、上田武	明治書院	2001	無
125	陶淵明愛菊図(室町時代)	図	「陶淵明愛菊図」					九州国立博物館/ColBase
126	兵車行	国語教材	『唐詩三百首詳解 上巻』	324-326	田部井文雄	大修館書店	1988	無
128	『兵車行』(結城素明筆 1897年)	図	結城素明作「兵車行」					東京芸術大学/DNPアートコミュニケーション(TUA000173)
129	桃夭	図	詩経 桃夭					CPCフォト(HK-250325)
130	『中国名詩選 上』 書影	図	『中国名詩選 上』		川合康三	岩波書店	2015	
132	売鬼	国語教材	『和刻本漢籍随筆集 第十三集』	477	長澤規矩也	汲古書院	1974	無
135	人面桃花	国語教材	『叢書集成新編 第七十八冊 本事詩』	310	王雲五	商務印書館	1939	有(21)
135	三彩女子(唐代)	写真	三彩女子					東京国立博物館/ColBase(TG-2896)
139	酒虫	国語教材	『中国古典小説選 9 聊齋志異(1)』	351-352	竹田晃、黒田真美子	明治書院	2009	無
142	経書とその注釈が書かれた肌着(清代)	写真	夾帯衣装(カンニング用下着)					CPCフォト(JBD-62)
142	『中国奇想小説集 古今異界万華鏡』 書影	図	『中国奇想小説集 古今異界万華鏡』		井波律子	平凡社	2018	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
144	何必曰利	国語教材	『新釈漢文大系 第4巻 孟子』	7	内野熊一郎	明治書院	1962	無
145	性猶湍水也	国語教材	『新釈漢文大系 第4巻 孟子』	379	内野熊一郎	明治書院	1962	無
146	青取之於藍而青於藍	国語教材	『全釈漢文大系 第7巻 荀子 上』	19-20	金谷治ほか	集英社	1973	無
148	天下莫柔弱於水	国語教材	『中国の古典 2 老子・列子』	34	麦谷邦夫	学習研究社	1983	無
149	夢為胡蝶	国語教材	『中国の古典5 荘子 上』	18	池田知久	学習研究社	1983	無
149	『胡蝶の夢』(英一蝶筆 江戸時代中期)	図	英一蝶筆「胡蝶の夢」					大倉集古館
150	愚公移山	国語教材	『新釈漢文大系 第22巻 列子』	223	小林信明	明治書院	1967	無
150	太行山脈	写真	中国 太行山脈					アフロ(5042312)
152	侵官之害	国語教材	『全釈漢文大系20 韓非子上』	141-142	小野沢精一	集英社	1975	無
154	非攻	国語教材	『墨子校注』	198		中華書局	1993	無
158	『図解 諸子百家の思想』 書影	図	『図解 諸子百家の思想』		浅野裕一	KADOKAWA	2024	
160	完璧帰趙	国語教材	『新釈漢文大系 第89巻 史記 九(列伝 二)』	249-252	水沢利忠	明治書院	1993	無
164	刎頸之交	国語教材	『新釈漢文大系 第89巻 史記 九(列伝 二)』	259-260	水沢利忠	明治書院	1993	無
167	風蕭蕭兮易水寒	国語教材	『新釈漢文大系 第89巻 史記 九(列伝 二)』	435-437	水沢利忠	明治書院	1993	無
169	『易水離別図』(寺崎廣業筆 1899年)	図	寺崎廣業作「易水離別図」					秋田市立千秋美術館
170	図窮而七首見	国語教材	『新釈漢文大系 第89巻 史記 九(列伝 二)』	439-442	水沢利忠	明治書院	1993	有(22)
171	荊軻の始皇帝暗殺(武梁祠西壁画像石拓本 漢代)	図	漢代武梁祠西壁画像石拓本					CPCフォト(PT-12376)
174	『司馬遷』 書影	図	『司馬遷』		武田泰淳	中央公論新社	2022	
176	捕蛇者説	国語教材	『新釈漢文大系 第71巻 唐宋八大家文読本(二)』	641-644	星川清孝	明治書院	1976	無
180	赤壁賦	国語教材	『漢文大系 2 古文真宝・三体詩・唐詩選』	48-50	服部宇之吉	富山房	1972	無
184	『科挙の話 試験制度と官人官僚』 書影	図	『科挙の話 試験制度と官人官僚』		村上哲見	講談社	2000	
186	長恨歌	国語教材	『白居易集』	238-239	顧学頡	中華書局	1979	無
187	『長恨歌絵巻』(狩野山雪筆 江戸時代前期)	図	狩野山雪筆「長恨歌絵巻」					パブリックドメイン/チェスター・ビーティー・ライブラリー蔵
189	再現された蜀の栈道(中国・四川省広元市)	写真	蜀の栈道(朝天峡先秦栈道跡)					CPCフォト(YS-54200)
191	『長恨歌絵巻』(狩野山雪筆 江戸時代前期)	図	狩野山雪筆「長恨歌絵巻」					パブリックドメイン/チェスター・ビーティー・ライブラリー蔵
193	梨の花	写真	梨の花					フォトライブラリー(3152193)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	加除訂正の有無 画家・エージェンシーなど
194	桐壺	国語教材	『新編日本古典文学全集20 源氏物語①』	351-352	阿部秋生、秋山虔、今井源衛、鈴木日出男	小学館	1994	無
195	木の花は	国語教材	『新編日本古典文学全集18 枕草子』	86	松尾聰、永井和子	小学館	1997	無
196	『白楽天詩選 上』書影	図	『白楽天詩選 上』		川合康三	岩波書店	2011	
206	『新釈漢文大系 1 論語』書影	図	『新釈漢文大系 1 論語』		吉田賢抗	明治書院	1960	
206	『ビギナーズ・クラシックス 中国の古典 易経』書影	図	『ビギナーズ・クラシックス 中国の古典 易経』		三浦國雄	KADOKAWA	2010	
206	『漢文の話』書影	図	『漢文の話』		吉川幸次郎	筑摩書房	2006	
206	『中国文学の愉しき世界』書影	図	『中国文学の愉しき世界』		井波律子	岩波書店	2017	
206	『日本人と漢字』書影	図	『日本人と漢字』		笹原宏之	集英社インターナショナル	2015	
206	『漢詩百首 日本語を豊かに』書影	図	『漢詩百首 日本語を豊かに』		高橋睦郎	中央公論新社	2007	
206	『カモメの日の読書 漢詩と暮らす』書影	図	『カモメの日の読書 漢詩と暮らす』		小津夜景	東京四季出版	2018	
206	『李白——漂泊の詩人 その夢と現実』書影	図	『李白——漂泊の詩人 その夢と現実』		金文京	岩波書店	2012	
207	『李白と杜甫』書影	図	『李白と杜甫』		高島俊男	講談社	1997	
207	『張良』書影	図	『張良』		宮城谷昌光	中央公論新社	2024	
207	『三国志 演義から正史、そして史実へ』書影	図	『三国志 演義から正史、そして史実へ』		渡邊義浩	中央公論新社	2011	
207	『論語物語』書影	図	『論語物語』		下村湖人	河出書房新社	2020	
207	『儒教入門』書影	図	『儒教入門』		土田健次郎	東京大学出版会	2011	
207	『仙人の桃』書影	図	『仙人の桃』		南伸坊	中央公論新社	2024	
207	『頼山陽のことば』書影	図	『頼山陽のことば』		長尾直茂	明德出版社	2017	
207	『漢文脈と近代日本』書影	図	『漢文脈と近代日本』		齋藤希史	KADOKAWA/角川学芸出版	2014	
207	『源氏物語の時代 一条天皇と后たちのものがたり』書影	図	『源氏物語の時代 一条天皇と后たちのものがたり』		山本淳子	朝日新聞出版	2007	

(備考)1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称(版次を含む。)、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
- ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
- ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が変更を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。

備考4の内容について確認しました。

出典一覧表(古典探究) 別紙 加除訂正一覧

[凡例]

*加除訂正は、おおむね、教材としての文章の結実性による文脈上の補整、配当時間・収録スペースの制約による原文の節略、あるいは発達段階に対する配慮や人権上の配慮、著作権者からの申し入れによる訂正等によるものである。これらは、理由欄に[教材(文意)の整合性][教材の簡潔性][学習上の配慮][著作権者の意向][検定基準(特定の企業等)]などと略記した。ただし、以下の項目に基づく訂正については、本表では省略した。

- 1 用字用語・表記の統一に関わるもの
- 2 句読点の打ち替え、改行箇所の変更や新設等
- 3 原典中の“見出し”や“注記”(例えば人物の生没年、引用出典)に類するものの変更や削除等
- 4 教材のタイトル及び構成上にかかわる見出しの削除や新設等

教材名	原典ページ	教科書ページ	加除訂正の内容	理由
古文編				
(1)竹取物語 かぐや姫の昇天	71ページ5行	40ページ6行	萎えかかりたる、中に → 萎えかかりたり。中に	[教材(文意)の整合性]
(2)枕草子 すさまじきもの	58ページ2行	56ページ2行	三、四月 → 三月、四月	[教材(文意)の整合性]
	59ページ4行	57ページ3行	また、かならず来べき人のもとに … いみじうすさまじけれ。 → 削除(25行分)	[教材の簡潔性]
(3)大鏡 花山天皇の出家	44ページ1行	83ページ1行	冷泉院第一皇子なり。 … 御年十五。 → 削除(7行分)	[教材の簡潔性]
(4)大鏡 弓争ひ	326ページ8行	93ページ1行	入道殿、矢もどして、やがて出でさせたまひぬ。…いみじう好ませたまひしなり。 → 削除(3行分)	[教材の簡潔性]
(5)源氏物語 物の怪の出現	37ページ4行	158ページ6行	斎宮は、去年内裏に入りたまふべかりしを … 御心の暇なげなり。 → 削除(9行分)	[教材の簡潔性]
(6)源氏物語 心づくしの秋風	199ページ12行	165ページ4行	げにいかにも思ふらむ … 四五人ばかりぞつとさびらひける。 → 削除(17行分)	[教材の簡潔性]
(7)源氏物語 女三の宮の降嫁	66ページ12行	176ページ15行	かう人のただならず言ひ思ひたるも … などてかさのみは思ひ悩まむ、など思す。 → 近く仕える女房たちや他の女君が、さまざまに取り沙汰し同情を寄せるにつけ、紫の上の神経は休まる時がない。	[教材の簡潔性]
(8)愛づー虫愛づる姫君(中村桂子)	179ページ8行	199ページ上段1行	哲学者の友人が「愛づる」 → 哲学者の友人が「愛づ」	[教材(文意)の整合性]
	179ページ9行	199ページ上段1行	(現在の表記法では「愛ずる」ですが、本来は「愛づる」です) → 削除	[教材の簡潔性]
	179ページ12行	199ページ上段3行	そのときの気持ちが「愛づる」だと説明してくれました。そして、「愛づる」をととてもよく → そのときの気持ちが「愛づ」だと説明してくれました。そして、「愛づ」をととてもよく	[教材(文意)の整合性]
	179ページ15行	199ページ上段8行	初めて「愛づる」の意味がわかり、 → 初めて「愛づ」の意味がわかり、	[教材(文意)の整合性]
	180ページ16行	199ページ下段16行	これが「愛づる」です。 → これが「愛づ」です。	[教材(文意)の整合性]
	181ページ1行	200ページ上段2行	ここには、 … 興味深く思いました。 → 削除(3行分)	[教材(文意)の整合性]
	182ページ3行	200ページ下段2行	(耳の後に髪をかける) → 削除	[教材の簡潔性]
	182ページ8行	200ページ下段8行	物語りとしては … 部分に絞ります。 → 削除(3行分)	[教材の簡潔性]
	183ページ2行	200ページ下段18行	興味を惹かれて … 抗議の気持ちが湧きます。 → 削除(19行分)	[教材の簡潔性]
	184ページ6行	201ページ上段1行	しかも、そこで … 川端康成が言っているように、 → 削除(22行分)	[教材の簡潔性]
	185ページ13行	201ページ上段5行	すでに何度も触れたように、 → 削除	[教材(文意)の整合性]

	185ページ13行	201ページ上段5行	その背景には … ガリレイたちの監察を支えた → 削除(4行分)	[教材の簡潔性]
	186ページ15行	201ページ下段1行	「愛づる」の意味はこれで明らかになりました。 → 「愛づ」の意味はこれで明らかになりました。	[教材(文意)の整合性]
(9)大鏡 道真と時平	76ページ10行	222ページ8行	かくて筑紫におはしつきて … 涙をのごひつつ興じみたり。 → 削除(20行分)	[教材の簡潔性]
	79ページ7行	223ページ12行	このことどもただちりぢりなるにも … 着てし濡衣ひるよしもなき → 削除(23行分)	[教材の簡潔性]
	81ページ6行	224ページ3行	内裏焼けて度々造らせたまふに … まつりごちたまひけれ。 → 削除(22行分)	[教材の簡潔性]
(10)難波土産 虚実皮膜の間	357ページ14行	261ページ7行	さるによつて、藝といふ所へ … 此類万事にわたる事なるべし。 → 削除(12行分)	[教材の簡潔性]
漢文編				
(11)画竜点睛	358ページ3行	11ページ1行	天監中。 … 吳興太守。 → 削除(1行分)	[教材の簡潔性]
	358ページ4行	11ページ2行	時諸王在外。 … 乃不令毀拆。又 → 削除(3行分)	[教材の簡潔性]
(12)項王最期	498ページ11行	40ページ5行	独籍所 → 独項王所	[教材(文意)の整合性]
	499ページ21行	40ページ10行	王翳取其頭。 … 為涅陽侯。 → 削除(7行分)	[教材の簡潔性]
(13)師説	86ページ15行	56ページ7行	而習其句読者。 → 而習其句読者也。	[教材(文意)の整合性]
(14)無恒産而有恒心者	40ページ3行	64ページ1行	曰、 → 孟子曰、	[教材(文意)の整合性]
(15)『莊子』と素粒子(湯川秀樹)	2ページ13行	72ページ下2行	莊子のこと → 「渾沌」の寓話	[教材(文意)の整合性]
	2ページ14行	72ページ下3行	「南海の帝を儻と為し、 … これがこの寓話の筋である。 → 削除(16行分)	[教材の簡潔性]
	4ページ7行	72ページ下15行	素粒子の基礎理論 … またちがったところもある。 → 削除(4行分)	[教材の簡潔性]
	5ページ15行	73ページ下7行	中国の古代の思想家の中で、 … 多い気がする。前の → 削除(7行分)	[教材の簡潔性]
	6ページ5行	73ページ下8行	渾沌の話も、 → 「渾沌」の話も、	[教材(文意)の整合性]
(16)人虎伝	196ページ4行	83ページ1行	楚人聞其声 … 囊橐。 → 削除(2行分)	[教材の簡潔性]
	196ページ7行	83ページ7行	家僮跡其去而伺之。 … 願詳其事。 → 削除(17行分)	[教材の簡潔性]
	197ページ16行	85ページ4行	嗟乎我与君同年登第。 … 豈有隱耶。 → 削除(8行分)	[教材の簡潔性]
	198ページ18行	88ページ9行	虎又曰。 … 願与子訣。 → 削除(5行分)	[教材の簡潔性]
(17)航西日記	82ページ6行	97ページ4行	而泊第尼 … 故宅。 → 削除	[教材の簡潔性]
	82ページ7行	97ページ5行	不能無感。賦詩二首。曰。往事 → 不能無感。往事	[教材(文意)の整合性]
(18)不死之薬	305ページ4行	102ページ4行	臣問謁者、曰、 → 臣問謁者。謁者曰、	[教材(文意)の整合性]
(19)三横	787ページ11行	105ページ3行	蹉 → 蹉跎	[教材(文意)の整合性]
(20)進遇於赤壁	47ページ6行	115ページ5行	操軍方進 → 操軍方連	[教材(文意)の整合性]
	47ページ11行	115ページ11行	船往若箭 → 船往如箭	[教材(文意)の整合性]
(21)人面桃花	310ページ17行	137ページ5行	笄 → 笄年	[教材(文意)の整合性]
	310ページ18行	137ページ8行	一女 → 此女	[教材(文意)の整合性]
(22)図窮而七首見	439ページ9行	170ページ1行	朝服設九賓 … → 秦王、朝服設九賓 …	[教材(文意)の整合性]

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考にする情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	古文編 表紙4 8,9,17,39,55,65,79,97, 107,119,139,145,155,203,21 9,239,267 漢文編 表紙4 8,917,27,47,61,77,93, 101,109,121,131,143,159,17 5,185	二次元コード	自社	自社ページURL	・二次元コードから閲覧できるコンテンツ目次	別紙1～8添付
2	古文編 巻頭〈1〉	二次元コード	自社	自社ページURL	・王朝女流作家系図 ・成立年代バー①②	別紙9添付 別紙10添付
3	古文編 巻頭〈3〉	二次元コード	自社	自社ページURL	・年中行事	別紙11添付
4	古文編10	二次元コード	自社	自社ページURL	・NHK for School 10minボックス 古文・漢文 説話 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150069_00000 ・ジャパンナレッジ 古典への招待 『十訓抄』の魅力 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_51.html ・安養の尼上の小袖（十訓抄）	別紙12添付
5	古文編12	二次元コード	自社	自社ページURL	・ジャパンナレッジ 古典への招待 説話集の読み方 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_50.html ・やさし蔵人（今物語）	別紙13添付
6	古文編14	二次元コード	自社	自社ページURL	・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第17回 『年中行事絵巻』 巻一「朝観行幸」の寝殿造を読み解く その1 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki17 ・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第13回 『年中行事絵巻』 巻三「闘鶏」の寝殿造を読み解く その1 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki13	

					<ul style="list-style-type: none"> 三省堂ウェブサイト 第16回 『年中行事絵巻』 卷六「臨時客」の寝殿造を読み解く https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki16 	
7	古文編18	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School 10minボックス 古文・漢文 徒然草（兼好法師） https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150071_00000 ジャパンナレッジ 古典への招待 中世の文学と思想 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_44.html NHK高校講座 古典探究 『玉勝間』 「兼好法師が詞のあげつらひ」 https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110644_00000 	
8	古文編28	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 養和の飢饉（方丈記） NHK高校講座 古典探究 方丈記 ～ゆく川の流れ～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110609_00000&lib=on 	別紙14添付
9	古文編32	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 学びを広げる 随筆と記録 ワークシート 	別紙15添付
10	古文編40	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School 10minボックス 古文・漢文 竹取物語 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150061_00000 ジャパンナレッジ 古典への招待 初期物語の方法～その伝承性をめぐって https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_12.html 	
11	古文編46	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School 10minボックス 古文・漢文 伊勢物語 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150065_00000 狩りの使ひ（伊勢物語） 	別紙16添付
12	古文編52	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 「信濃国姨母棄山語」（『今昔物語集』 卷30-9） 	別紙17添付
13	古文編56	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School 10minボックス 古文・漢文 枕草子 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150066_00000 NHK高校講座 日本史 貴族社会と摂関政治 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120304_00000 NHK for School 歴史にドキリ 紫式部・清少納言～国風文化の誕生～ https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120260_00000 三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (2) 『枕草子』は随筆文学？ https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura02 三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (3) 『枕草子』は後宮女房日記？ https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura03 	

					<ul style="list-style-type: none"> 三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (5) 『枕草子』の3種の章段 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura05 ジャパンナレッジ 古典への招待 枕草子を読むたのしき https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_18.html 『白氏文集』書き下し文・口語訳 	別紙18添付
14	古文編59	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 学びを広げる 古語と現代語 ワークシート 	別紙19添付
15	古文編66	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 早稲田大学Podcasts 博士一步前 Vol.2国文学【紫式部の生涯】源氏物語、創作の動機と才女の生きた平安時代 https://www.waseda.jp/top/other/98699 NHK for School 10minボックス 古文・漢文 源氏物語（紫式部） https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150067_00000 高麗人の観相（源氏物語〈桐壺巻〉） 藤壺の里下がり（源氏物語〈若紫〉） 第25回モリサワ文字文化フォーラム「国宝『源氏物語絵巻』の美」 https://www.morisawa.co.jp/culture/forums/reports/4576 廃院の怪（源氏物語〈夕顔〉） 	別紙20添付 別紙21添付 別紙22添付
16	古文編80	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School 10minボックス 古文・漢文 大鏡 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150186_00000 NHK高校講座 日本史 貴族社会と摂関政治 https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022120047_00000 	
17	古文編87	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 学びを広げる 『栄花物語』との読み比べ ワークシート 今さらのご対面（栄花物語） 世の響き（栄花物語） 	別紙23添付 別紙24添付 別紙25添付
18	古文編98	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第75回『因幡堂縁起』五段「薬師如来像の飛来」を読み解く — 『更級日記』に見る旅路(1)— https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki75 皇居三の丸尚蔵館 更級日記（藤原定家筆） https://shozokan.nich.go.jp/collection/object/SZK003039 	
19	古文編104	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> 今や夢昔や夢と（建礼門院右京大夫集） 	別紙26添付
20	古文編108	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> NHK for School 10minボックス 古文・漢文 平家物語 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150070_00000 NHK for School 平氏と源氏 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310765_00000 NHK for School 源氏と平氏の戦い https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310766_00000 	

					<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館インターネット資料収集保存事業インターネットアーカイブ 平曲（「祇園精舎」から「灌頂巻」まで） https://archive.org/details/Heike ・須田誠舟ホームページ 須田誠舟（琵琶奏者） https://www.sudaseishu.com/news_sudaseishu_biwa.html ・源氏・平氏系図 	別紙27添付
21	古文編120	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・三省堂ウェブサイト 古語辞典でみる和歌 第3回「木の間より…」 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/waka03 ・三省堂ウェブサイト 古語辞典でみる和歌 第27回 逆接の表現を含む和歌 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/waka27 ・三省堂ウェブサイト 古語辞典でみる和歌 第29回「らむ」「けむ」を含む和歌 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/waka29 ・三省堂ウェブサイト 古語辞典でみる和歌 第30回 係り結びを含む和歌 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/waka30 ・NHK for School 10minボックス 現代文 短歌 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150045_00000 ・主要枕詞一覧 ・小倉百人一首 	別紙28添付 別紙29添付
22	古文編128	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンナレッジ 古典への招待 連歌と俳諧と連句 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_61.html 	
23	古文編131	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本連句協会 連句とは https://renku-kyokai.net/renku/ ・主要季語一覧 	別紙30添付
24	古文編134	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・俳諧系統図 	別紙31添付
25	古文編140	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・侍従大納言、験者の改請を止むること（発心集） ・丹後の国の成合のこと（古本説話集） 	別紙32添付 別紙33添付
26	古文編142	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詠みの徳（宇治拾遺物語） 	別紙34添付
27	古文編146	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・木の花は（枕草子） ・頭の弁の、職に参り給ひて（枕草子） ・この草子、目に見え心に思ふことを（枕草子） ・歴史人 皇女を出産した中宮定子のその後とは？ 一条天皇に愛され続けた波 乱の生涯 https://www.rekishijin.com/37310 	別紙35添付 別紙36添付 別紙37添付

					<ul style="list-style-type: none"> ・歴史人 皇后定子之死と一条天皇の嘆き 愛し合った2人が詠み残した悲しすぎる和歌とは https://www.rekishijin.com/37956 ・三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (8) 初宮仕え～定子との出会い～ https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura08 ・三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (15) 中関白家の子息たち～伊周(これちか)～ https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura15 ・三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (17) 中関白道隆の死 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura17 ・三省堂ウェブサイト 『枕草子日記的章段の研究』 発刊に寄せて (21) 長徳の変～歴史的背景～ https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/makura21 	
28	古文編156	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・車争ひ(源氏物語〈葵〉) ・明石の姫君入内(源氏物語〈藤裏葉〉) ・形見の文(源氏物語〈幻〉) ・夢の浮橋(源氏物語〈夢浮橋〉) ・風俗博物館 登場人物の関係図 https://www.iz2.or.jp/rokujoin/jinbutsu.html ・風俗博物館 光源氏の邸宅を訪ねる https://www.iz2.or.jp/rokujoin/teitaku.html ・ジャパナレッジ 古典への招待 人物造型について https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_24.html ・ジャパナレッジ 古典への招待 「形代」としての浮舟 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_25.html ・ジャパナレッジ 古典への招待 紫の上と寝覚の上～成長する女主人公について https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_28.html ・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第4回 『年中行事絵巻』 巻三「蹴鞠」を読み解く その1 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki5-2 ・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第33回 『源氏物語』 「橋姫」段の「大君・中君姉妹をのぞき見る薫」を読み解く https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki33 	別紙38添付 別紙39添付 別紙40添付 別紙41添付

					<ul style="list-style-type: none"> ・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第38回 『源氏物語』 「東屋（二）」段の「三条の浮舟の家に訪れた薫」を読み解く https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki38 ・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第30回 『源氏物語』 「御法」段の「紫上の最期」を読み解く https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki30 	
29	古文編162	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・文化デジタルライブラリー 『葵上』早わかり https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc14/aoinoue/hayawakari/index.html ・文化デジタルライブラリー 『葵上』と『源氏物語』 https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc14/aoinoue/himotoku/theme/index.html ・山本能楽堂 「能の5分間」『葵上』 https://www.youtube.com/watch?v=Mp3VeRIMQRI ・能楽協会 曲目解説「葵上」 https://www.nohgaku.or.jp/guide/commentary_aoinoue ・独立行政法人日本芸術文化振興会 能楽への誘い https://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/noh/jp/ 	
30	古文編196	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・父大納言の頼み（とりかへばや物語） ・はいずみ（堤中納言物語） ・初瀬の霊夢（住吉物語） ・嵯峨野わたり（しのびね） ・ジャパナレッジ 古典への招待 改作物語と散逸物語～『住吉物語』『とりかへばや物語』の周辺 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_39.html ・ジャパナレッジ 古典への招待 後悔の大将狭衣の君 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_30.html 	別紙42添付 別紙43添付 別紙44添付 別紙45添付
31	古文編199	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・JT生命誌研究館 館内展示「蟲愛づる姫君」 https://www.brh.co.jp/exhibition_hall/hall/the-princess-who-loved-insects/ 	
32	古文編204	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパナレッジ 古典への招待 『土佐日記』と『蜻蛉日記』 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_13.html ・国文学研究資料館 阿波国文庫本『蜻蛉日記』 https://www.nijl.ac.jp/koten/kokubun1000/1000okadatakanori.html 	
33	古文編206	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを広げる 『蜻蛉日記』広がる逸話 ワークシート 	別紙46添付
34	古文編210	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパナレッジ 古典への招待 女流日記文学の条件と特色 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_26.html 	

					・歴史人 中宮彰子に仕えた和泉式部の華麗なる恋愛遍歴 紫式部の辛口評価の内容とは？ https://www.rekishijin.com/38649	
35	古文編213	二次元コード	自社	自社ページURL	・和泉式部と清少納言（紫式部日記） ・三省堂ウェブサイト 絵巻で見る 平安時代の暮らし 第6回 『紫式部日記絵巻』 「敦成親王五十日の祝〈1〉」を読み解く https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki6	別紙47添付
36	古文編220	二次元コード	自社	自社ページURL	・宣耀殿の女御（大鏡） ・鶯宿梅（大鏡） ・ジャパナレッジ 古典への招待 権力の帰趨を見つめるまなざし https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_34.html	別紙48添付 別紙49添付
37	古文編226	二次元コード	自社	自社ページURL	・学びを広げる 日本三大怨霊 コメントシート ・文化デジタルライブラリー 菅原伝授手習鑑 https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc23/tpc/tpc_faith2.html ・NHKアーカイブス 平将門の首塚 https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0004990825_00000 ・公益社団法人香川県観光協会 うどん県旅ネット 悲運の帝・崇徳上皇ゆかりの地を巡る https://www.my-kagawa.jp/course/2425/	別紙50添付
38	古文編242	二次元コード	自社	自社ページURL	・鷹狩りの歌（俊頼髓脳）	別紙51添付
39	古文編244	二次元コード	自社	自社ページURL	・ジャパナレッジ 古典への招待 物語と藤原定家の周辺 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_40.html	
40	古文編252	二次元コード	自社	自社ページURL	・亡き人恋ふる（正徹物語）	別紙52添付
41	古文編255	二次元コード	自社	自社ページURL	・秘すれば花（風姿花伝）	別紙53添付
42	古文編257	二次元コード	自社	自社ページURL	・NHK for School 世阿弥がのこしたもの https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310058_00000 ・ジャパナレッジ 古典への招待 世阿弥という人 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_59.html	
43	古文編263	二次元コード	自社	自社ページURL	・師の説になづまざること（玉勝間）	別紙54添付
44	古文編268	二次元コード	自社	自社ページURL	・ジャパナレッジ 古典への招待 西鶴の武家物 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_69.html	
45	古文編273	二次元コード	自社	自社ページURL	・青空文庫 太宰治『新釈諸国噺』 https://www.aozora.gr.jp/cards/000035/files/2269_15103.html	
46	古文編274	二次元コード	自社	自社ページURL	・ジャパナレッジ 古典への招待 浄瑠璃略史 https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_77.html	

					<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンナレッジ 古典への招待 浄瑠璃から文楽へ https://japanknowledge.com/articles/koten/shoutai_76.html ・芳流閣の決闘（南総里見八犬伝） ・赤坂宿へ（東海道中膝栗毛） 	別紙55添付 別紙56添付
47	古文編283	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・まぎらわしい品詞の識別 ・倭建の東征（古事記） ・NHK for School 古事記と日本書紀 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403022_00000 ・三省堂ウェブサイト 『日本国語大辞典』をよむ 第68回 ア行とヤ行 https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/nikkoku68 	別紙57添付 別紙58添付
48	古文編 40,46,56,66,80,204,220	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法解説動画 	別紙59添付
49	漢文編 巻頭〈1〉	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・成立年代バー 	別紙60添付
50	漢文編10	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK高校講座 言語文化 訓読の基本(1) 訓読 https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110248_00000 ・NHK高校講座 言語文化 訓読の基本(2) 格言 https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110249_00000 	
51	漢文編12	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for School 10min.ボックス 古文・漢文 故事成語 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150073_00000 	
52	漢文編14	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の助詞・助動詞にあたる主な漢字 	別紙61添付
53	漢文編18	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for School 10min.ボックス 古文・漢文 漢詩 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150074_00000 ・NHK高校講座 ベーシック国語 漢文を読む～漢詩～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110029_00000#in=0&out=600 ・NHK高校講座 古典 中国の詩 鹿柴・臨洞庭 https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022310056_00000&lib=on ・NHK高校講座 古典探究 中国の詩 ～絶句、春夜～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110621_00000 ・NHK for School 遣唐使船 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005403015_00000 ・朗読音声 	別紙62添付
54	漢文編28	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK高校講座 古典探究 史記 ～鴻門之会(1) 項羽、大いに怒る～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110628_00000 ・NHK高校講座 古典探究 史記 ～鴻門之会(2) 剣の舞・樊噲、頭髮 上指す～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110629_00000 	

					<ul style="list-style-type: none"> ・NHK高校講座 古典探究 史記 ～鴻門之会（3） 沛公、虎口を脱す～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110630_00000 ・NHK高校講座 古典探究 史記 ～四面楚歌（1） 時 利あらず～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110631_00000 ・NHK高校講座 古典探究 史記 ～四面楚歌（2） 項王の最期～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110632_00000 ・天道是邪非邪（史記） ・大丈夫当如此也（史記） ・大風起兮雲飛揚（史記） 	別紙63添付 別紙64添付 別紙65添付
55	漢文編42	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・題烏江亭（杜牧）口語訳 ・烏江亭（王安石）口語訳 ・烏江（李清照） ・学びを広げる 『史記』項王の生きざま ワークシート 	別紙66添付 別紙67添付 別紙68添付 別紙69添付
56	漢文編50	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート 	別紙70添付
57	漢文編55	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・送薛存義之任序（柳宗元） ・古文復興 	別紙71添付 別紙72添付
58	漢文編62	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for School 10min.ボックス 古文・漢文 論語 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150075_00000 ・NHK高校講座 ベーシック国語 漢文を読む ～論語～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110030_00000#in=0&out=600 ・NHK高校講座 古典探究 孟子 ～仁人心也～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110640_00000 ・NHK高校講座 倫理 儒家思想 ～仁と礼の広がり～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022130076_00000 ・NHK高校講座 倫理 老荘思想 ～大いなる道～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022130077_00000 ・無用之用（老子） 	別紙73添付
59	漢文編72	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・KyotoU Channel 湯川秀樹－その人－ https://www.channel.pr.kyoto-u.ac.jp/video/16872 	
60	漢文編90	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for School 10min.ボックス現代文 山月記（中島敦） https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150044_00000 ・NHK高校講座 文学国語 山月記（1） https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110490_00000 ・山月記（中島敦） ・学びを広げる 「人虎伝」と「山月記」を読み比べる ワークシート 	別紙74添付 別紙75添付
61	漢文編94	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK高校講座 古典探究 日本の詩 ～不出門～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110622_00000 	

					<ul style="list-style-type: none"> ・ 頼山陽史跡資料館 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/raisanyou/ ・ 廣瀬資料館 http://hirose-museum.jp/ ・ 子規記念博物館 https://shiki-museum.com/masaokashiki/ ・ NHK for School 夏目漱石 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310141_00000 ・ NHK高校講座 ベーシック国語 文学史 ～夏目漱石～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110012_00000 ・ 新宿区立漱石山房記念館 https://soseki-museum.jp/ ・ 森鷗外記念館 https://www.town.tsuwano.lg.jp/shisetsu/ougai.html ・ 夜下墨水（服部南郭） ・ 悼亡（大沼枕山） ・ 池亭記（慶滋保胤〈本朝文粹〉） ・ 取塩於我国（頼山陽〈日本外史〉） ・ 題不識庵擊機山図（頼山陽） ・ 桜巒春容（林鶴梁〈鶴梁文鈔〉） 	<ul style="list-style-type: none"> 別紙76添付 別紙77添付 別紙78添付 別紙79添付 別紙80添付 別紙81添付
62	漢文編102	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ NHK for School 10min.ボックス 古文・漢文 故事成語 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150073_00000 	
63	漢文編108右下	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを広げる 諫言の方法 ワークシート 	別紙82添付
64	漢文編110	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ NHKアーカイブス 人形劇 三国志 https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009010269_00000 ・ 桃園結義（三国志演義） ・ 張翼徳大鬧長坂橋（三国志演義） 	<ul style="list-style-type: none"> 別紙83添付 別紙84添付
65	漢文編122	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陟岵（詩經） ・ 行行重行行（文選） ・ 把酒問月（李白） 	<ul style="list-style-type: none"> 別紙85添付 別紙86添付 別紙87添付
66	漢文編129	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを広げる 朗読会を開く ワークシート 	別紙88添付
67	漢文編135	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉限（西陽雜俎） 	別紙89添付
68	漢文編139	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「酒虫」（芥川龍之介） 	別紙90添付
69	漢文編144	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ NHK高校講座 古典探究 老子 ～柔弱～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110641_00000 ・ NHK高校講座 古典探究 莊子 ～蝴蝶の夢～ https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110642_00000 ・ 聖人不期修古（韓非子） 	別紙91添付

70	漢文編160	二次元コード	自社	自社ページURL	・ 澠池之会（史記）	別紙92添付
71	漢文編173	二次元コード	自社	自社ページURL	・ NHKアーカイブス NHKスペシャル 始皇帝 THE FIRST EMPEROR https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009010407_00000	
72	漢文編186	二次元コード	自社	自社ページURL	・ NHK高校講座 世界史探究 古代の中国と中央ユーラシア https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022120208_00000 ・ 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ 京都大学所蔵資料でたどる文学史年表: 長恨歌 https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00007913/explanation/chogon ・ 国立国会図書館開館60周年記念貴重書展 学ぶ・集う・楽しむ 第一部 学ぶ～古典の継承～> 歴史・漢籍 2 https://www.ndl.go.jp/exhibit60/copy1/4rekishi_2.html	
73	漢文編194	二次元コード	自社	自社ページURL	・ NHK for School 10min.ボックス 古文・漢文 源氏物語（紫式部） https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150067_00000 ・ NHK for School 10min.ボックス 古文・漢文 枕草子 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005150066_00000 ・ NHK for School 清少納言 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310037_00000 ・ 歴史にドキリ 紫式部・清少納言～国風文化の誕生～ https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120260_00000 ・ 桐壺（源氏物語）口語訳 ・ 木の花は（枕草子）口語訳 ・ 七月七日（更級日記） ・ 学びを広げる「長恨歌」と『源氏物語』『枕草子』を読み比べる ワークシート	別紙93添付 別紙94添付 別紙95添付 別紙96添付
74	漢文編197				・ 訓読語とその由来 ・ 中国歴代王朝表 ・ 歴代官職表	別紙97添付 別紙98添付 別紙99添付
75	古文編 16,38,54,64,78,96,106,118,138,144,154,202,218,238,266,282 漢文編 16,26,46,60,76,92,100,108,120,130,142,158,174,184,196	二次元コード	自社	自社ページURL	・ 単元の振り返りシート	別紙100添付

76	古文編 16,38,54,64,78,96,106,118,138,144,154,202,218,238,266,282,284 漢文編 16,26,46,60,76,92,100,108,120,130,142,158,174,184,196,206	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックガイドリスト 古文編 ※古文編にのみ掲載 ・ブックガイドリスト 漢文編 ※漢文編にのみ掲載 ・読書記録シート ・読書感想文の書き方 	別紙101添付 別紙102添付 別紙103添付
77	古文編 10,12,14,18,28,40,46,52,56,66,80,98,104,108,120,128,134,140,142,146,156,196,204,210,213,220,240,242,244,248,250,252,255,258,261,263,268,274 漢文編 10,11,12,14,18,28,48,52,55,62,78,82,94,102,104,106,110,122,132,135,139,144,160,176,180,186	二次元コード	自社	自社ページURL	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能デジタルドリル 	別紙104添付

古文編

巻頭

この教科書で学ぶ 作品と文学史 +

絵でたどる 平安貴族の一生 +

第一部

| 1 説話

博雅の三位と鬼の笛 -

古文・漢文 説話

古典への招待 十訓抄の魅力

安養の尼上の小袖（十訓抄）

知識・技能デジタルドリル

小野篁、広才のこと +

大江山 +

単元の振り返り +

| 2 随筆（一）

徒然草 +

方丈記 +

[学びを広げる]随筆と記録——『百練抄』との読み比べ +

単元の振り返り +

| 3 物語（一）

竹取物語 +

伊勢物語 +

大和物語 +

単元の振り返り +

| 4 随筆（二）

枕草子	+
[学びを広げる]古語と現代語	+
単元の振り返り	+

| 5 物語（二）

源氏物語	+
単元の振り返り	+

| 6 歴史物語

大鏡	+
[学びを広げる]『栄花物語』との読み比べ	+
単元の振り返り	+

| 7 日記文学

更級日記	+
建礼門院右京大夫集	+
単元の振り返り	+

| 8 軍記物語

平家物語	+
単元の振り返り	+

| 9 和歌・連歌・俳諧

和歌十七首	+
水無瀬三吟百韻	+
[学びを広げる]〈座の文学〉を楽しもう	+
俳諧二十句	+
単元の振り返り	+

第二部

| 1 説話

四の宮河原地蔵のこと	+
小大進、北野の神助を被ること	+
単元の振り返り	+

| 2 随筆

枕草子	+
単元の振り返り	+

| 3 物語

源氏物語	+
[学びを広げる]能「葵上」	+
堤中納言物語	+
[参考] 愛づ——虫愛づる姫君	+
単元の振り返り	+

| 4 日記文学

蜻蛉日記	+
[学びを広げる]『蜻蛉日記』広がる逸話	+
和泉式部日記	+
紫式部日記	+
単元の振り返り	+

| 5 歴史物語

大鏡	+
[学びを広げる]日本三大怨霊	+
単元の振り返り	+

| 6 評論

古今和歌集仮名序	+
俊頼髓脳	+
無名草子	+
無名抄	+
毎月抄	+
正徹物語	+
風姿花伝	+
[学びを広げる]世阿弥の言葉	+
去来抄	+
難波土産	+
源氏物語玉の小櫛	+
単元の振り返り	+

| 7 近世の文学

西鶴諸国ばなし	+
[学びを広げる]読み比べ——太宰治「貧の意地」	+
曾根崎心中	+
単元の振り返り	+

| ブックガイド

ブックガイド	+
--------	---

| 資料編

まぎらわしい品詞の識別	+
倭建の東征（古事記）	+
古事記と日本書紀	+
『日本国語大辞典』をよむ	+

漢文編

巻頭

この教科書で学ぶ 作品と文学史

+

第一部

| 1 故事成語

漱石枕流

+

画竜点睛

+

杞憂

+

塞翁馬

+

単元の振り返り

+

| 2 漢詩——近体詩

近体詩

+

単元の振り返り

+

| 3 史伝

史記

+

[学びを広げる]『史記』項王の生きざま

+

単元の振り返り

+

| 4 文章

漁父辞

+

[学びを広げる]対立する人生観

+

春夜宴桃李園序

+

師説

+

単元の振り返り

+

| 5 思想——儒家・道家の思想

儒家・道家の思想	+
[参考]『莊子』と素粒子	+
単元の振り返り	+

| 6 小説

桃花源記	+
人虎伝	+
[学びを広げる]「人虎伝」と「山月記」を読み比べる	+
単元の振り返り	

| 7 日本の漢詩文

日本の漢詩文	+
単元の振り返り	+

第二部

| 1 小話

不死之薬	+
三横	+
不顧後患	+
[学びを広げる]諫言の方法	+
単元の振り返り	+

| 2 「三国志」の世界

「三国志」の世界	+
単元の振り返り	+

| 3 漢詩——古体詩

古体詩

+

[学びを広げる]朗読会を開く

+

単元の振り返り

+

| 4 小説

売鬼

+

人面桃花

+

酒虫

+

単元の振り返り

+

| 5 思想——思想と寓話

思想と寓話

+

単元の振り返り

+

| 6 史伝

史記

+

[学びを広げる]裏目に出る法家の統治術——『史記』刺客列伝

+

単元の振り返り

+

| 7 文章

捕蛇者説

+

赤壁賦

+

単元の振り返り

+

| 8 長恨歌

長恨歌

+

[学びを広げる] 「長恨歌」と『源氏物語』『枕草子』を読み比べる

+

単元の振り返り

+

| ブックガイド

ブックガイド

+

| 資料編

訓読語とその由来

+

中国歴代王朝表

+

歴代官職表

+

■資料補足

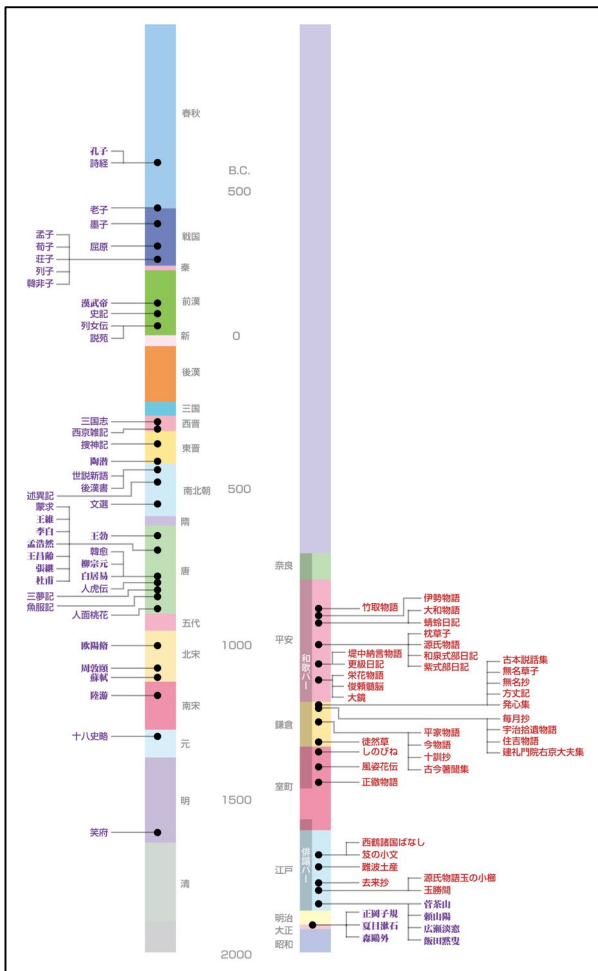
- 各タイトルのバーは開閉式（+（開）／-（閉））となります。
- 読み込んだ二次元コードのページに該当する箇所が表示されます。バーを開いてタイトルをクリックすると、それぞれのコンテンツが表示されます。

例) 【古文編】第一部「博雅の三位と鬼の笛」

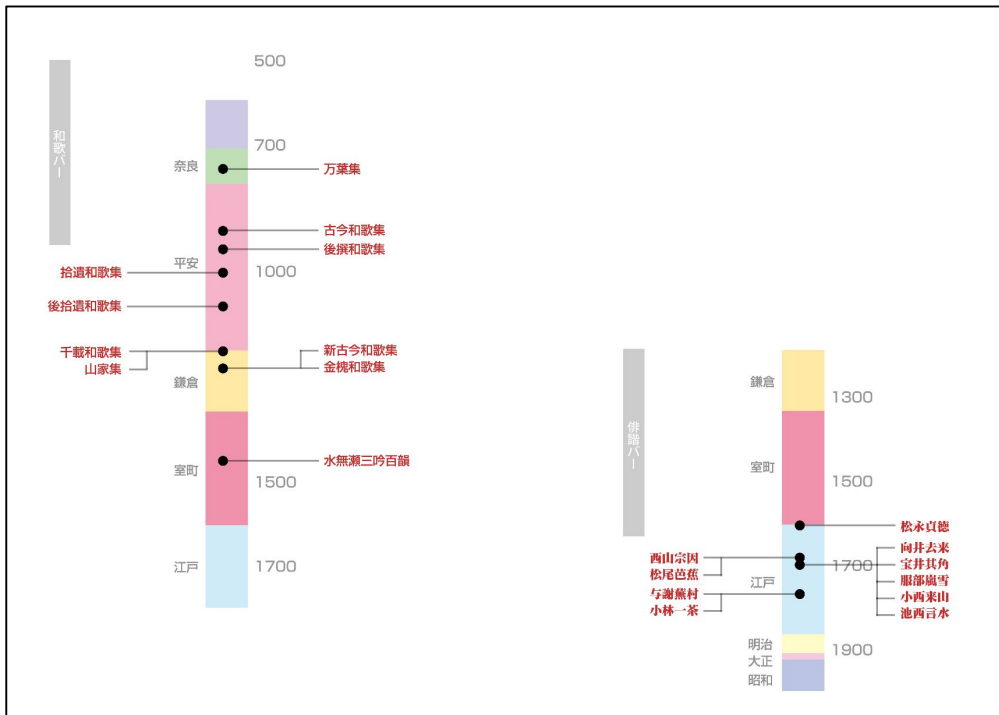
二次元コードを読み込んでコンテンツ一覧を表示した後、「古文・漢文 説話」「古典への招待 十訓抄の魅力」「安養の尼上の小袖（十訓抄）」「知識・技能デジタルドリル」のタイトルのバーを開いた場合

- 複数のバーを同時に開くこともできます。
- バーを閉じる際には、再度バーをクリックして閉じます。

成立年代バー①



成立年代バー②



付 古典の主要年中行事

古典の主要年中行事

【一月】睦月むつづき

四方拜よしかた (元日) 天皇が清涼殿きよらうだんより東庭で四方の神々と代々の山陵を遙拜し、国家安泰を祈る。

朝拜あそら (元日) 朝賀とも。大極殿おほきくだんにて、群臣が天皇に年賀を申し上げる。小朝拜こあそら (元日) 略式の朝拜。清涼殿きよらうだんより東庭で親王殿上人が天皇に年賀を申し上げる。元日の節会ふしなひ (元日) 小朝拜の後、豊樂院とよがくいんにて(後に、紫宸殿むらさきみかど)で天皇が群臣に宴を賜る。吉方讀よしかたよみ (元日) 吉方(吉方)にあたる神社に参詣して祈る。

朝賀行幸あそらぎやう (一日か吉日) 天皇が上皇や皇太后の御所に行幸して拝賀する。二宮ふたみやの大饗おほけ (二日) 群臣が中宮なかつみや東宮あづまみやの二宮に拝賀し、宴を賜る。臨時書りんじしよ (二日) 摂関家や大臣家で親王や公卿きんぎょうなどを招いて宴を催す。白馬しろうまの節会ふしなひ (七日) 天皇御覽のもと、紫宸殿むらさきみかどと南庭で左の馬寮うまくらの白馬を引き回し、宴を賜る。

七禮しちらいの勢せい (七日) 春の七草を入れた粥かゆを食べる。室町時代以降の風習。女親位めむちやう (八日) 中務省なかつむかひが可り、内親王以下の女子を五位以上に叙する。踏歌ふみうた (十四日) 男踏歌、十六日は女踏歌、足を踏みながらして歌舞し、宮中から諸所を巡る。射礼やうらい (十七日) 親王以下五位以上の者、六衛府むくわうの官人などが、建礼門けんれいもんにおいて弓を射る。

月日は陰暦。読みは歴史的なつかいによる。

贈言くわんげん (十八日) 天皇御覽のもと、贈け物が出されて、近衛府ちかゑのふり・兵衛府へいゑのふりの舍人やうじんが弓の術を競う。

内宴うちえん (二十日) 天皇が仁寿殿にじゆだんで宴を賜る。女樂めがくを奏し、詩文を作る。子この日の遊あそび (上の子の日) 野に出て小松を引き、若菜わかしほを摘み、宴遊して若菜を祈る。卯うの日の遊あそび (上の卯の日) 桃や梅などを束ねて五色の糸を垂い杖を六衛府むくわうから朝廷に献上す。卯うの日の遊あそび (上の卯の日) 桃の木などで作り、五色の糸を垂らした杖を六衛府むくわうから朝廷に献上す。方官かつかんの因主いんしゆ(領)を任命する。

二月ふたつき 如月にがしづ

折年せねんの祭まつり (四日) 神祇官しんぎが因可いんか行で、五穀豊穰ごこくほうじやうを祈り、諸社に奉幣ほうへいする。別異べつい (十一日) 公卿きんぎょうが太政官たうていで六位以下の昇進しょうしん候補こうほを接見する。還かへりの祭まつり (十五日) 歌壇かだんの入親位いりむちやう(死しにぞした日)をしのんで法会ほふかいを行う。

釈奠しやくだん (上の丁ていの日) 大学寮だいがくさうと諸國の官学くわんがくで孔子とその弟子を祭る。八月の同日にも、の御饗みけ (不定日) 宮中で大般若だいぱんぎや經を転読てんたつさせ、国家、天皇の安泰を祈る。八月にも。

【三月】弥生やよい

曲水まがみづ (三日) 水流に浮かべた盃さかずきが流れ着くまでに詩歌を詠じて酒を飲む。上巳じやうしの祓はら (上の巳の日) 人形にんぎやうに汚れを移して水に流し、厄災を取り除く。雛祭ひなまつりの節ふしなひ (中の午うまの日) 石清水いししみずの臨時りんじの祭まつり。(中の午うまの日) 石清水八幡宮いししみずやわたらひの例祭れいさい、南祭なんさいとも。

花はなの飛とび散ちるの節ふしなひ (不定日) 花の飛び散るのを鎮め、疫病を防ぐ。祭まつり、鏡かがみ花はな祭まつり近世は十八日。

四月よしかた 卯月う

衣え更かへ (一日) 衣え装まや調度品てうだうひんなどを夏の装まいに改める。孟夏もうげ (二日) 夏の初めに天皇が群臣を召して宴を賜る。二孟にもう句くのつ (十月) 孟冬もうとう句くのつ (二日) 二月の別見で遷考した者の遷うつりかひを改めて安上する。

灌かん仏ぶつ (八日) 釈迦しやくかの誕生を祝い、釈迦像しやくかざうに香か水すい、甘茶かんぢやを注ぎ、法会ほふかいを行う。富とみ院いん御ご饗け (中の午うまの日) 賀茂かものの祭まつり。に先立さきだて、富とみ院いんが賀茂川かものがわで饗けをす。賀茂かものの祭まつり (中の酉とりの日) 京都上賀茂きょうとうかもの、下賀茂しもかもの神社の祭礼さいらい、富とみ院いん一行が行列を整えて参拝する。

五月いご 奉月ほうげつ

高瀬たかせ上かみ (三日) 五日の節会ふしなひで用いる高瀬たかせなどを盛った興きようを六衛府むくわうの官人が献上する。端午たんご御ご饗け (五日) 高瀬たかせなどを軒のきに飾り、邪氣じやくきを禊そぎう。宮中では饗射けいせや宴がある。

十訓抄

安養の尼上の小袖

横川の恵心僧都の妹、安養の尼上のもとに強盗入りて、あるほどの物具、みな取りて出でければ、尼上は紙衾といふものばかり、ひき着てゐられたりけるに、姉尼のもとに小尼上とてありけるが、走り参りて見れば、小袖を一つ落したりけるを、「これを落として侍るなり。奉れ。」とて持て来たりければ、「それを取りてのちは、わが物とこそ思ひつらめ。主の心ゆかぬ物をば、いかが着るべき。いまだ、よも遠くはよも行かじ。とくとく持ておはして、取らせ給へ。」とありければ、門戸のかたへ走り出でて、「やや。」と呼び返して、「これを落とされにけり。たしかに奉らむ。」と言ひければ、盗人ども立ち止まりて、しばし案じたる気色にて、「悪しく参りにけり。」とて、取りける物どもを、さながら返し置きて帰りにけり。

今物語

やさし蔵人

大納言なりける人、小侍従と聞こえし歌詠みに通はれけり。ある夜、もの言ひて、曉掃られけるに、女の家を門を遣り出だされけるが、きと見返りたりければ、この女、名残を思ふかと思しくて、車寄せの簾に透きて、一人残りたりけるが、心にかかりおぼえてければ、供なりける蔵人に、「いまだ入りやらで見送りたるが、ふり捨てがたきに、何とまれ、言ひて来。」とのたまひければ、ゆゆしき大事かなと思へども、ほど経べきことならねば、やがて走り入りぬ。車寄せの縁にかしこまりて、「申せと候ふ。」とは、さうなく言ひ出でたれど、何と言ふべき言の葉もおぼえぬに、折しもゆふつけ鳥、声々に鳴き出でたりけるに、「あかぬ別れの」と言ひけることの、きと思ひ出でられければ、

物かはと君が言ひけむ鳥の音の今朝もなどか悲しがるらん

とばかり言ひかけて、やがて走りつきて、車の尻に乗りぬ。

家に帰りて、中門に下りてのち、「さて、何とか言ひたりつる。」と問ひ給ひければ、「かくこそ。」と申しければ、いみじくめでたがられけり。「さればこそ、使ひにははからひつれ。」とて、感のあまりに、しる所など賜びたりけるとなん。この蔵人は内裏の六位など経て、「やさし蔵人」と言はれける者なりけり。

方丈記

養和の飢饉

鴨長明

また養和のころとか、久しくなりておぼえず。二年が間、世の中飢渴して、あさましきこと侍りき。あるいは春・夏・日照り、あるいは秋・大風・洪水など、よからぬことどもうち続きて、五穀ごとく生らず。夏植うる営みありて、秋刈り、冬収むるそめきはなし。これによりて国々の民、あるいは地を捨てて境を出で、あるいは家を忘れて山に住む。あさまの御祈り始まりて、なべてならぬ法ども行はるれど、さらさらそのしるしなし。京のならひ、何わざにつけても、みな、もとは田舎をこそ頼めるに、絶えて上るものなければ、さのみやは操も作りあへん。念じわびつつ、あさまの財物かたはしより捨つるがごとくすれども、さらに目見立つる人なし。たまたま換ふる者は、金を軽くし、粟を重くす。乞食、道のほとりに多く、憂へ悲しむ声耳に満てり。

前の年かくのごとくからうじて暮れぬ。明くる年は、立ち直るべきかと思ふほどに、あましさへ疫癘うち添ひて、あさまに跡形なし。世の人みなけいしぬれば、日を経つつ窮まりゆくさま、少水の魚のたとへにかなへり。はてには笠うち着、足ひき包み、よろしき姿したる者、ひたすらに家ごとに乞ひ歩く。かくわびしれたる者どもの、歩くかと思れば、すなはち倒れ臥しぬ。築地のつら、道のほとりに飢え死ぬる者のたぐひ、数も知らず。取り捨つるわざも知らねば、臭き香、世界に満ち満ちて、変はりゆくかたちありさま、目も当てられぬこと多かり。いはんや河原などには、馬・車の行きかふ道だになし。

あやしき賤、山がつも力尽きて、薪さへ乏しくなりゆけば、頼むかたなき人は、自らが家をこぼちて、市に出でて売る。一人が持ち出でたる備、一日が命にだに及ばずとぞ。あやしきことは、薪の中に、赤き丹つき、箔など所々に見ゆる木、あひまじはりけるを尋ねれば、すべき方なき者、古寺に至りて仏を盗み、堂の物を破り取りて、割り砕けるなりけり。濁悪世にしも生まれあひて、かかる心憂きわざをなん見侍りし。

いとあはれなることも侍りき。去りがたき妻・夫持ちたる者は、その思ひまさりて深き者、必ず先立ちて死ぬ。そのゆゑは、わが身は次にして人をいたはしく思ふ間に、まれまれ得たる食ひ物をも彼に譲るによりてなり。されば、親子ある者は定まれることにて、親ぞ先立ちける。また、母の命尽きたるを知らずして、いとけなき子の、なほ乳を吸ひつつ、臥せるなどもありけり。

仁和寺に、隆曉法印といふ人、かくしつづ数も知らず死ぬることを悲しみて、その首の見ゆ

◆学びを広げる 『方丈記』（随筆）と『百練抄』（記録）の読み比べ

年 組 番 一

一 『方丈記』だけに書かれていること

『方丈記』だけに書かれていることの共通点

二 随筆と記録が伝えようとしていることの手帳

随筆…

記録…

伊勢物語

狩りの使ひ

昔、男ありけり。その男、伊勢の国に狩りに行きけるに、かの伊勢の斎宮なりける人の親、「常の使ひよりは、この人よくいたはれ。」と言ひやれりければ、親の言なりければ、いとねむごろにいたはりけり。朝には狩りに出だし立ててやり、夕さはり帰るつと、そこに來させけり。かくて、ねむごろにいたつきけり。

二日といふ夜、男、われて、「逢はむ。」と言ふ。女もはた、いと逢はじとも思へらず。されど、人目繁ければ、え逢はず。使ひさねとある人なれば、遣くも宿さず。女の闌近くありければ、女、人を静めて、子一つばかりに、男のもとに來たりけり。男はた、寝られざりければ、外の方を見出して臥せるに、月のおぼろなるに、小さき童を先に立てて、人立てり。男、いとうれしくて、わが寝る所に率て入りて、子一つより丑三つまであるに、まだ何事も語らぬに帰りにけり。男、いと悲しくて、寝ずなりにけり。

つとめて、いぶかしけれど、わが人をやるべきにあらねば、いと心もなくて待ちをれば、明け離れてしばしあるに、女のもとより、詞はなく、

君や来し我や行きけむ思ほえず夢かうつつか寝てか覺めてか
男、いといたう泣きて詠める、

かきくらす心の闇に惑ひにき夢うつつとは今宵定めよ
と詠みてやりて、狩りに出でぬ。

野に歩けど、心はそらにて、今宵だに人静めて、いと疾く逢はむと思ふに、国守、斎宮頭かけたる、狩りの使ひありと聞きて、夜ひと夜酒飲みければ、もはら逢ひこともえせで、明けば尾張の国へ立ちなむとすれば、男も人知れず血の涙を流せど、え逢はず。

夜やうやう明けなむとするほどに、女方より出だす杯の皿に、歌を書きて出だしたり。取り見れば、

かち人の渡れど濡れぬえにしあれば
と書きて、末はなし。その杯の皿に、続松の炭して、歌の末を書き継ぐ。

また逢坂の関は越えなむ
とて、明くれば尾張の国へ越えにけり。

斎宮は水尾の御時、文徳天皇の御娘、惟喬親王の妹。

(第六九段)

今昔物語集

姨母捨山

今は昔、信濃の国更科といふ所に住む者ありけり。年老いたりける姨母を家に据ゑて、親のごとくして養ひて、年々相添ひて過ぐしけるに、その心にこの姨母いと厭はしく覺えて、これが姑のごとくにて老いかがりてゐたるを、きはめて憎く思ひければ、常に夫にこの姨母の心のさがなく悪しき由を言ひ聞かせければ、夫、「むつかしきことかな。」と言ひて、この姨母のために心にあらで、おろかなることども多くなりもて行きけるに、この姨母いといたく老いて、腰は二重にてゐたり。

嫁はいよいよこれを厭ひて、「今までこれが死なぬことよ。」と思ひて、夫に、「この姨母の心のきはめて憎きに、深き山に率て行き捨てよ。」と言ひけれども、夫いとほしがりて捨てざりけるを、妻あながちに責め言ひければ、夫、責められわびて、捨てむと思ふ心付きて、八月十五夜の月のいと明かりける夜、姨母に、「いざたまへ、嬬ども。寺にきはめて貴きことする、見せ奉らむ。」と言ひければ、姨母、「いとよきことかな。まうでむ。」と言ひければ、男かき負ひて、高き山の麓に住みければ、その山にはるばると峰に登り立ちて、姨母下り得べくもあらぬほどになりて、うち据ゑて、男逃げて帰りぬ。姨母、「をいをい。」と叫べど、男、答へもせで逃げて家に帰りぬ。

さて家にて思ふに、妻に責められてかく山に捨てつれども、年々親のごとく養ひて相添ひてありつるに、これを捨つるがいとかなしく覺えけるに、この山の上より月のいと明かくさし出でたりければ、夜もすがら寝られず、恋しくかなしく覺えて、独り言にかくなむ言ひける、

わが心慰めかねつ更科や姨母捨山に照る月を見て

と言ひて、またその山の峰に行きて、姨母を迎へ率て来たりける。さてものごとくぞ養ひける。

されば、今の妻の言はむことに付きて、よしなき心を起さずべからず。今もさることほありぬべし。

さてその山をば、それよりなむ、姨母捨山と言ひける。「慰めがたし」と言ふたとへには、旧事にこれを言ふにぞ。その前には冠山とぞ言ひける。冠の中子に似たりけるとぞ、語り伝へたるとや。

(卷三十の第九 信濃の国の姨母棄山のこと)

【書き下し文】

香炉峰下、新たに山居を下し、草堂初めて成り、偶、東壁に題す

日高く睡り足りて猶ほ起くるに備し

小閣に衾を重ねて寒を怕れず

遺愛寺の鐘は杖を敬て聴き

香炉峰の雪は簾を擡げて看る

匡廬は便ち是れ名を逃るるの地

司馬は仍ほ老を送るの官たり

心泰く身寧きは是れ帰する処

故郷何ぞ独り長安のみに在らんや

【口語訳】

香炉峰の麓に新たに山居を占い定め、草ぶきのささやかな家がいまや完成した、思いつくままに東の壁に書きつける。

日がすっかり高く昇り、睡眠も十分とったというのに、それでもまだ起きるのにけだるい。

このささやかな二階の小さな部屋ではあるが、掛け布団を重ねていれば寒さは気にはならない。

遺愛寺の鐘の音は、頭を杖に付けたまま聞き入り、

香炉峰の雪は簾を持ち上げて眺める。

思えばこの廬山は、これこそ俗世間の名声から逃れるのにふさわしい土地であり、

司馬という今の官職は、やはり老後を送るのに都合のいい官職である。

心も体も安らかに暮らせる所こそ、自分の身を落ち着かせる場所。

故郷はどうして長安だけに限ろうか。(いや、どこでも故郷になりうる。)

◆学びを広げる 古語と現代語 ワークシート

一 古今異義語をさがす

年 組 番

二 古語と現代語の意味と用例を調べる

・利用した辞書

【古語辞典…

【国語辞典…

語		音		
語	音	語	音	

三 気がついたこと・考えたこと

源氏物語

紫式部

高麗人の観相

三歳の夏に母桐壺更衣を亡くし、六歳で祖母を亡くした光源氏は、父桐壺帝のもとで愛情を一身にかけて育つ。七歳になつた後の美しさと聡明さは、宮中の人々を驚かせるほどであった。

そのころ、高麗人の参れる中に、かしこき相人ありけるを聞こし召して、宮の内に召さむことは宇多帝の御誡めあれば、いみじう忍びてこの皇子を鴻臚館に遣はしたり。御後見だちて仕うまつる右大弁の子のやうに思はせて率て奉るに、相人驚きて、あまたたび傾きあやしむ。「国の親となりて、帝王の上なき位にのぼるべき相おはします人の、そなたにて見れば、乱れ憂ふることやあらむ。朝廷のかためとなりて、天の下を輔くる方にて見れば、またその相違ふべし。」と言ふ。

弁も、いと才かしこき博士にて、言ひ交はしたることもなむいと興ありける。文など作り交はして、今日明日帰り去りなむとするに、かくありがたき人に対面したるよろこび、かへりては悲しかるべき心ばへをおもしろく作りたるに、皇子もいとあはれなる句を作り給へるを、限りなうめで奉りて、いみじき贈り物どもを捧げ奉る。朝廷よりも多くの物賜はず。おのづから事ひるこりて、漏らさせ給はねど、春宮の祖父大臣など、いかなることにかと思し疑ひてなむありける。

帝、かしこき御心に、倭相を仰せて思しよりにけるすぢなれば、今までの君を親王にもなさせ給はざりけるを、相人はまことにかしこかりけりと思して、無品親王の外戚の寄せなきにては漂はさじ、わが御世もいと定めなきを、ただ人にて朝廷の御後見をするなむ行く先も頼もしげなめることと思し定めて、いよいよ道々の才を習はさせ給ふ。際ごとにかしこくて、ただ人にはいとあたらしけれど、親王となり給ひなば世の疑ひ負ひ給ひぬべくものし給へば、宿曜のかしこき道の人に勘へさせ給ふにも同じさまに申せば、源氏になし奉るべく思しおきてたり。

(桐壺)

臣稱に降下した光源氏は十二歳で元服し、左大臣の嫡妻の上と結婚する。しかし、光源氏の心には、母に生き写しといわれる父帝の記憶を深く、いつか藤壺のような人を妻として迎えたいと思うのだった。

源氏物語

紫式部

藤壺の里下がり

光源氏十八歳の春、北山で藤壺ゆかりの姫君（後の紫の上）を見いだして以来、光源氏は藤壺の代わりに、姫君を手も
とにおいて心の慰めとしたいと願う。亡き母に代わり少女を養育する祖母の尼君に姫君引き取りを懇願するが、尼君は取
り合わない。帰京後、正妻葵の上の冷淡な態度に、光源氏はますます姫君への思いを募らせ、また藤壺への秘めた思いに
苦悩の日々を過ごすのであった。

藤壺宮、なやみ給ふことありて、まかで給へり。上のおぼつかながら嘆き聞こえ給ふ御気色も、いといとほしう見奉りながら、かかるをりだにと心もあくがれ惑ひて、いづくにもいづくにももうで給はず、内裏にても里にても、昼はつれづれとながめ暮らして、暮るれば王命婦を責め歩き給ふ。

いかがたばかりけむ、いとわりなく見奉るほどさへ、現とはおぼえぬぞわびしきや。宮もあさましかりしを思し出づるだに、世とどもの御もの思ひなるを、さてだにやみなむと深う思したるに、いと心憂くて、いみじき御気色なるものから、なつかしうらうたげに、さりとしてうちとけず心深う恥づかしげなる御もてなしなどのなほ人に似させ給はぬを、などかなのめなることだにうちまじり給はざりけむと、つらうさへぞ思さるる。

何ごとをか聞こえつくし給はむ、暗部の山に宿もとらまほしげなれど、あやになる短夜にて、あさましうなかなかなり。

見てもまたあふよまれる夢の中にやがてまぎるるわが身ともがなとむせかへり給ふさまも、さすがにいみじければ、

世がたりに人や伝へむたぐひなくき身を醒めぬ夢になしても
思し乱れたるさまも、いとことわりにかたじけなし。命婦の君ぞ、御直衣などはかき集めもて来たる。

殿におはして、泣き寝に臥し暮らし給ひつ。御文なども、例の、御覧じ入れぬよしのみあれば、常のことながらも、つらういみじう思しほれて、内裏へも参らで二、三日籠りおはすれば、また、いかなるにかと御心動かせ給ふべかめるも、恐ろしうのみおぼえ給ふ。

宮も、なほいと心憂き身なりけりと申し嘆くに、なやましさもまさり給ひて、とく参り給ふべき御使ひしきれと思し立たず。まことに御心地例のやうにもおはしまさぬはいかなるにかと、人知れず思すこともありければ、心憂く、いかならむとのみ思し乱る。暑きほどはいとと起きも上がり給はず。三月になり給へば、いとるるきほどにて、人々見奉りとがむるに、あさましき御宿世のほど心憂し。人は思ひよらぬことなれば、この月まで奏せさせ給はざりけるこ

源氏物語

廃院の怪

紫式部

十七歳になった光源氏は、五月雨の降る宵中の宿直の夜、頭中得（正妻の上の妾）たちと女性輪を交わした。父帝の妃藤原氏の秘めた思いに悩む光源氏は、この「雨夜の品定め」によって中流階級の女性へ関心を抱く。そんな折、夕顔の白い花が咲く粗末な家に女（夕顔）が住んでいることを知った。頭中得ゆかりの女性かと思いがちながらも五いの素性を明かさぬまま、光源氏は乳母子権光の手引きで女のもとに会い始める。八月十五日の夜夕顔の家で過ごした光源氏は、夕顔をひそかに近くの荒れ果てた廃院に連れ出した。うちとけた無邪気な様子を見せる夕顔を見るにつけ、光源氏は以前のからの通い所である大茶園裏所（前掌宮妃）との気づまりな関係を思い比べるのだった。

宵過ぐるほど、すこし寝入り給へるに、御枕上にとをかしげなる女居て、「おのがいとめでたしと見奉るをば尋ね思ほさで、かく異なることなき人を率ておはして時めかし給ふこそ、いとめざましくつらけれ。」とて、この御かたはらの人をかき起こさむとすと見給ふ。物に襲はるる心地して、驚き給へれば、灯も消えにけり。うたて思さるれば、太刀を引き抜きてうち置き給ひて、右近を起し給ふ。これも恐ろしと思ひたるさまにて参り寄れり。「渡殿なる宿直人起こして、紙燭さして参れと言へ。」とのたまへば、「いかでかまからむ、暗うて。」と言へば、「あな若々し。」とうち笑ひ給ひて、手を叩き給へば、山彦の答ふる声いと疎まし。人え聞きつけて参らぬに、この女君いみじくわなき惑ひて、いかさまにせむと思へり。汗もしどとなりて、我かの気色なり。「もの怖ちをなむわりなくせさせ給ふ本性にて、いかに思さるるにか。」と右近も聞こゆ。いと弱くて、昼も空をのみ見つるものを、いとほしと思して、「我人を起こさむ。手叩けば山彦の答ふる、いとうるさし。ここに、しばし、近く。」とて、右近を引き寄せ給ひて、西の妻戸に出でて、戸を押し開け給へれば、渡殿の灯も消えにけり。風すこしうち吹ききたるに、人はすくなくて、候ふかぎり皆寝たり。この院の預かりの子、睦ましく使ひ給ふ若き男、また上童一人、例の隨身ばかりぞありける。召せば、御答へして起きたれば、「紙燭さして参れ。隨身も弦打ちして絶えず声づくれと仰せよ。人離れたる所に心とけて寝ぬるものか。惟光朝臣の来たりつらむは。」と問はせ給へば、「候ひつれど仰せ言もなし、暁に御迎へに参るべき由申してなむ、まかで侍りぬる。」と聞こゆ。このかう申す者は、滝口なりければ、弓強いつきづきしくうち鳴らして、「火危ふし。」と言ふ言ふ、預かりが曹司の方に去ぬなり。内裏を思しやりて、名対面は過ぎぬらむ、滝口の宿直奏し今こそ、と推しはかり給ふは、まだいたう更けぬにこそは。

帰り入りて探り給へば、女君はさながら臥して、右近はかたはらにうつ伏し臥したり。「こはなぞ、あなものの狂ほしもの怖ちや。荒れたる所は、狐などやうのもののおおびやかさむとて、け恐ろしう思はするならむ。まるあれば、さやうのものにはおどされじ。」とて引き起こし給ふ。「いとうたて乱り心地の悪しう侍れば、うつ伏し臥して侍るや。御前にこそわりなく

栄花物語

今さらのご対面

九六六(長徳)二年四月、花山法皇への不敬などにより、藤原伊周・隆家兄弟は失脚し、伊周は筑前国の大宰府(現在の福岡県大宰府市)に、隆家は出雲の国(現在の島根県東部)に配流されることが決まった。その後、朝廷からの命により、伊周は播磨の国(現在の兵庫県西部)、隆家は但馬の国(現在の兵庫県北部)に留め置かれていた。

はかなく秋にもなりぬれば、世のちいとどあはれに、萩吹く風の音も、遠きほどの御けはひのそよめきに思しよそへられけり。

播磨よりも但馬よりも、日々に人参り通ふ。北の方の御心地いやすきに重りにければ、ことごとし、「帥殿今一度見奉りて死なむ、帥殿今一度見奉りて死なむ。」といふことを、寝ても覚めてものたまへば、宮の御前もいみじう心苦しきことに思し召し、この御はらからの主たちも、いかなるべきことにかと思ひまはせど、なほいと恐ろし。北の方は切に泣き恋ひ奉り給ふ。見聞き奉る人々も、やすからず思ひ聞こえたり。

播磨にはかくと聞き給ひて、いかにすべきことにはあらむ、事の聞こえあらば、わが身こそはいよいよ不用の者になりはてて、都を見てやみなめなど、よろづに思しつづけて、ただとにかくに御涙のみぞ陳なきや。さはれ、この身はまたはいかがはならむとする、これにまさるやうはと、思しなりて、親の限りにおはせむ見奉りたりとて、公もいとど罪せさせ給ひ、神仏も憎ませ給はば、なほさるべきなめりとこそは思はめと、思したちて、夜を昼にて上り給ふ。

さて宮の内には事の聞こえあるべければ、この西の京に西院といふ所に、いみじう忍びて夜中におはしたれば、上も宮もいと忍びてそこにおはしましあひたり。この西院も、殿のおはしまししをり、この北の方のかやうの所をわざと尋ねかへりみさせ給ひしかば、そのをりの御心ばへどもに思ひて、洩らすまじき所を思しよりたりけり。母北の方も、宮の御前も、御方々も、殿も見奉りかはさせ給ひて、また今さらのご対面の喜びの御涙も、いとおどろおどろしういみじ。上はかしく御車に乗せ奉りて、おましながらかきおろし奉りける。いと不覚になりける御心地なりけれど、よろづ騒がしう泣く聞こえ給ひて、「今は心やすく死にもし侍るべきかな。」と、喜び聞こえ給ふも、いかでかはおろかに、あはれに悲しとも世の常なりや。

栄花物語

世の響き

九九九(長保元)年に一条天皇の皇后藤原定子の産んだ敦康親王は、第一皇子であり、帝位を望める身であったが、一〇〇八(寛弘五)年に中宮藤原彰子が第二皇子敦成親王を産んだことで、状況が一変する。時の権力者である藤原道長を祖父にもつ敦成親王に対し、敦康親王には、誕生時に開白であった祖父藤原道隆はすでに亡く、二歳で母定子を、十二歳で伯父伊弉を亡くしていた。一〇一一(寛弘八)年六月、一条天皇は讓位にあたり、十三歳の敦康親王ではなく、四歳の敦成親王を東宮の座に就けることを決断する。

中宮は若宮の御事の定まりぬるを、例の人におはしまさば、せひなくうれしうこそは思し召すべきを、「上は道理のままにとこそは思しつらめ。かの宮も、さりとともさやうにこそはあらめと思しつらむに、かく世の響きにより、引き違へ思し捉ふるにこそあらめ。さりととも御心の中の嘆かしやすからぬことには、これをこそ思し召すらむに、いみじう心苦しういとほしう、若君はまだいと幼くおはしませば、おのづから御宿世にまかせてありなむものを。」など思し召いて、殿の御前にも、「なほこのこといかでさらでありにしがなとなむ思ひ侍る。かの御心の中には、年ごろ思し召しつらむことの違ふをなむ、いと心苦しうわりなき。」など、泣く泣くといふばかりに申させ給へば、殿の御前、「げにいとありがたきことにもおはしますかな、またさるべきことなれば、げにと思ひ給へてなむ捉て仕らまつるべきを、上おはしまして、あべいことどもをつぶつと仰せらるるに、『いな、なほ思しう仰せらるることなり。次第にこそ。』と奏し返すべきことにも侍らず。世の中いとはかなう侍れば、かくて世に侍るをり、さやうならむ御ありさまも見せ奉り侍りなば、後の世も思ひなく心やすくてこそ侍らめとなむ思ひ給ふる。」と申させ給へば、またこれも理の御事なれば、返し聞こさせ給はず。

建礼門院右京大夫集

建礼門院右京大夫

今や夢昔や夢と

女院、大原におはしますとばかりは聞き参らすれど、さるべき人に知られでは参るべきやうもなかりしを、深き心をするべにて、わりなくて訪ね参るに、やうやう近づくまに、山道の気色よりまづ涙は先立ちて言ふ方なきに、御座のさま、御住まひ、事柄、すべて目も当てられず。昔の御ありさま見参らせざらむだに、おほかたの事柄、いかがこともなのめならむ。まして、夢うつとも言ふ方なし。秋深き山風、近き梢に響き合ひて、懸樋の水のおとづれ、鹿の声、虫の音、いづくものことなれど、例なき悲しさなり。都ぞ春の錦を裁ち重ねて、候ひし人々六十余人ありしかど、見忘るるさまに衰へ果てたる墨染めの姿して、僅かに三、四人ばかりぞ候はるる。その人々にも、「さてもや。」とばかりぞ、我も人も言ひ出でたりし。むせぶ涙におぼはれて、すべて言も続けられず。

今や夢昔や夢と迷はれていかに思へどうつつとぞなき

仰ぎ見し昔の雲の上の月かかる深山の影ぞかなしき

花のほひ、月の光にたとへても、一方には飽かざりし御面影、あらぬかとのみたどらるるに、かかる御事を見ながら、何の思ひ出なき都へとて、されば何とて帰るらむと、うとましく心憂し。

山深くとどめおきつるわが心やがてすむべきしるべとをなれ

発心集

侍従大納言、験者の改請を止むること

鴨長明

侍従大納言成通卿、そのかみ九歳にて、癩病みし給ひけり。年ころ祈りける某僧都とかやいふ人を呼びて祈らせけれど、かひなくおこりければ、父の民部卿ごとに嘆き給ひて、傍らに添ひゐて見抜ひ給ふ間に、母君と言ひ合はせつつ、「さりとて、いかがはせむ。このたびは異僧をこそ呼ばめ。いづれかよかるべき。」などのたまひけるを、この児臥しながら聞きて、民部卿に聞こえ給ふ。「なほこのたびは僧都を呼び給へかと思ふなり。そのゆゑは、乳母などの申すを聞けば、まだ腹の内なりける時より、この人を祈りの師と頼みて、生まれて今九つになるまでことゆゑなくて待てるは、ひとへにかの人の徳なり。それに今日この病によりて口惜しく思はんことの、いと不便に待るなり。もし異僧を呼び給ひたらば、たとひ落ちたりとも、なほ本意にあらず。いはんや、必ず落ちんこともかたし。さりとてこれにて死ぬるほどのことは、よも侍らじ。我を思さば、いくたびもなほこの人を呼び給へ。つひにはさりとて止みなん。」と、苦しげなるをためらひつつ聞こえ給ふに、民部卿も母上も、涙を流しつつあはれに思ひよせたり。「幼き思ひばかりには劣りてけり。」とて、またのあたり日、僧都を呼びて、ありのままにこの次第を語り給ふ。「隠し奉るべきことに侍らず。御事をおろかに思ふにはあらねども、かれが悩み煩ひ侍る気色を見るに、心もほれて、思されむことも知らず、しかしかのことを入々に申すを知りて、この幼き者のかく申し侍るなり。」と、涙を押し拭ひつつ語り給ふに、僧都おろかに思されむや。その日、ことに信をいたしき。泣く泣く祈り給ひければ、際やかに落ち給ひにけり。

この君は、幼くよりかかる心もち給ひて、君に仕うまつり、人に交はるにつけても、ことに触れつつ情け深く、優なる名をとめ給へるなり。すべていみじきすき人にて、世の濁りに心をそめず、妹背の間に愛執浅き人なりければ、後世も罪浅くこそ見えけれ。

古本説話集

丹後の国の成合のこと

今は昔、丹後の国は北国にて、雪深く、風けはしく侍る山寺に、観音験じ給ふ。そこに貧しき修行者籠りにけり。冬のことにて、高き山なれば、雪いと深し。これにより、おぼろげならずは人通ふべからず。この法師、糧絶えて日ごろ経るままに、食ふべき物なし。雪消えたらばこそ出でて乞食をもせめ、人を知りたらばこそ「訪へ。」とも言はめ、雪の中なれば、木草の葉だに食ふべき物もなし。五、六日請ひ念ずれば、十日ばかりになりなければ、力もなく、起き上がるべき心地もせず。寺の辰巳の隅に破れたる藁うち敷きて、木もえ拾はねば、火もえ焚かず、寺は荒れたれば、風もたまらず、雪も降らず、いとわりなきに、つくづくと臥せり。物のみ欲しくて、経も読まれず、念仏だにせられず。ただ今を念じて、「今しばしありて、物は出で来なん、人は訪ひてん。」と思はばこそあらめ、心細きこと限りなし。今は死ぬるを限りにて、心細きままに、「この寺の観音、頼みてこそは、かかる雪の下、山の中にも臥せれ、ただひとたび声を高くして『南無観音。』と申すに、もろもろの願ひみな満ちぬることなり。年ごろ仏を頼み奉りて、この身いと悲し。日ごろ観音に心ざしを一つにして頼み奉るしるしに、今は死に侍りなんす。同じき死にを、仏を頼み奉りたらんばかりには、終はりをまたしかに乱れずとりもやすとて、この世には、今さらにはかばかしきことあらじとは思ひながら、かくし歩き侍り。なか助け給はざらん。高き位を求め、重き宝を求めばこそあらめ、ただ今日食べて、命生くばかりの物を求めて賜べ。」と申すほどに、戌亥の隅の荒れたるに、狼に追はれたる鹿入り来て、倒れて死ぬ。

ここにこの法師、「観音の賜ひたるなんめり。」と、「食ひやせまし。」と思へども、「年ごろ仏を頼みて行ふこと、やうやう年積もりにたり。いかでかこれをはかに食はん。聞けば、生き物みな前の世の父母なり。われ物欲しといひながら、親の肉を屠りて食らはん。物の肉を食ふ人は、仏の種を絶ちて、地獄に入る道なり。よろづの鳥獸も、見ては逃げ走り、怖れ騒ぐ。菩薩も遠ざかり給ふべし。」と思へども、この世の人の悲しきことは、のちの罪もおぼえず、ただ今生きたるほどの堪へがたさに堪へかねて、刀を抜きて、左右の股の肉を切り取りて、鍋に入れて煮食ひつ。その味はひの甘きこと限りなし。

さて、物の欲しさも失せぬ。力もつきて人心地おぼゆ。「あさましきわざをもしつるかな。」と思ひて、泣く泣くあたるほどに、人々あまた来る音。聞けば、「この寺に籠りたりし聖はいかになり給ひにけん。人通ひたる跡もなし。参り物もあらじ。人気なきは、もし死に給ひに

宇治拾遺物語

歌詠みの徳

今は昔、大陣の守なる人、国の政をしたため行ひたまふあひだ、郡司のしどけなかりければ、「召しにやりて戒めむ。」と言ひて、先々のやうに、しどけなきことありけるには、罪に任せて、重く軽く戒むることありければ、一度にあらず、たびたびしどけなきことあれば、重く戒めむとて、召すなりけり。

「ここに召して率て参りたり。」と人の申しければ、先々するやうにし伏せて、尻頭にのぼりみたる人、苔を設けて、打つべき人設けて、先に人二人、引き張りて出で来たるを見れば、頭は、黒髪も混じらず、いと白く、年老いたり。

見るに、打ぜむこといとほしく覚えければ、何ごとにつけてかこれを許さむと思ふに、言付くべきことなし。過ちどもを片端より問ふに、ただ老いを高家にて答へをる。いかにしてこれを許さむと思ひて、「おのれはいみじき盗人かな。歌は詠みてむや。」と言へば、「はかばかしからず候へども、詠み候ひなむ。」と申しければ、「さらば仕れ。」と言はれて、ほどもなく、わななき声にてうち出だす。

一年を経て頭の雪はつもれどもしもと見るにぞ身は冷えにける
と言ひければ、いみじうあはれがりて、感じて許しけり。

人はいかにも情けはあるべし。

(第一一一 歌詠みて罪を免るること)

枕草子

清少納言

木の花は

木の花は、濃きも薄きも、紅梅。桜は花びら大きに、葉の色濃きが、枝細くて咲きたる。藤の花は、しなひ長く、色濃く咲きたる、いとめでたし。

四月のつごもり、五月のついたちのころほひ、橘の葉の濃く青きに、花のいと白う咲きたるが、雨うち降りたるつとめてなどは、世になう心あるさまにかし。花の中より黄金の玉かと思えて、いみじうあざやかに見えたるなど、朝露に濡れたるあさばらの桜に劣らず。ほととぎすのよすがとさへ思へばにや、なほさらに言ふべうもあらず。

梨の花、よにすさまじきものにして、近うもてなさず、はかなき文つけなどだにせず。愛敬後れたる人の顔などを見ては、たとひに言ふも、げに葉の色よりはじめてあはひなく見ゆるを、唐土には限りなき物にて文にも作る、なほさりともし棟あらむと、せめて見れば、花びらの端にかしきにほひこそ、心もとなうつきたためれ。楊貴妃の、帝の御使ひに会ひて、泣きける顔に似せて、「梨花一枝、春、雨を帯びたり。」など言ひたるは、おほろけならじと思ふに、なほいみじうめでたきことは、たくひあらじとおほえたり。

桐の木の花、紫に咲きたるは、なほをかしきに、葉の広がりさまぞ、うたてこちたけれど、異木どもと等しう言ふべきにもあらず。唐土にことごとしき名つきたる鳥の、選りてこれにのみ居るらむ、いみじう心異なり。まいて琴につくりて、さまざまなる音の出で来るなどは、をかしなど世の常に言ふべくやはある。いみじうこそめでたけれ。

木のさまにくげなれど、棟の花、いとをかし。枯れ枯れに、さまざまに咲きて、必ず五月五日にあふもをかし。

(第三五段)

枕草子

清少納言

頭の弁の、職に参り給ひて

頭の弁の、職に参り給ひて、物語などし給ひしに、「夜いたう更けぬ。明日御物忌みなるに、籠るべければ、丑になりなば悪しかりなむ。」とて参り給ひぬ。

つとめて、藏人所の紙屋紙ひき重ねて、「今日は残り多かる心地なむする。夜を通して、昔物語も聞こえ明かさむとせしを、鶏の聲に催されてなむ。」と、いみじう言多く書き給へる、いとめでたし。御返りに、「いと夜深く侍りける鳥の聲は、孟嘗君のにや。」と聞こえたれば、たちかへり、「孟嘗君の鶏は、函谷関を開きて、三千の客、わづかに去れり、とあれども、これは逢坂の関なり。」とあれば、

「夜をこめて鳥のそら音ははかるとも世に逢坂の関は許さじ心かしこき関守侍り。」と聞こゆ。またたちかへり、

「逢坂は人越えやすき関なれば鳥鳴かぬにもあけて待つとか」

とありし文どもを、初めのは僧都の君、いみじう額をさへつきて、取り給ひてき。後々ののは、御前に。さて、逢坂の歌はへされて、返しもえせずなりにき。いとわろし。

さて、「その文は殿上人みな見てしは。」とのたまへば、「まことに思しけりと、これにこそ知られぬれ。めでたきことなど、人の言ひ伝へぬは、かひなきわざぞかし。また見苦しきこと散るがわびしければ、御文は、いみじう隠して人につゆ見せ侍らず。御心ざしのほどを比べるに、等しくこそは。」と言へば、「かくものを思ひ知りて言ふが、なほ人には似ずおぼゆる。『思ひぐまなく悪しうしたり。』など、例の女のやうにや言はむとこそ思ひつれ。」など言ひて笑ひ給ふ。『こはななどで。喜びをこそ聞こえぬ。』など言ふ。「まろが文を隠し給ひける、また、なほあはれにうれしきことなりかし。いかに心憂くつらからまし。いまよりも、さを頼み聞こえむ。」などのたまひて、後に、経房の中將おはして、「頭の弁は、いみじうほめ給ふとは知りたりや。一日の文にありしことなど語り給ふ。思ふ人の人にほめらるるは、いみじううれしき。」など、まめまめしうのたまふもをかし。「うれしきこと二つにて、かのほめ給ふなるに、また思ふ人のうちに侍りけるをなむ。」と言へば、「それめづらしう、今のこのやうにも喜び給ふかな。」などのたまふ。

(第一二九段)

枕草子

清少納言

この草子、目に見え心に思ふことを

この草子、目に見え心に思ふことを、人やは見むとすると思ひて、つれづれなる里居のほどに、書き集めたるを、あいなう、人のために便なき言ひ過ぐしもしつべき所々もあれば、よう隠しおきたりと思ひしを、心よりほかにこそ漏り出でにけれ。

宮の御前に、内の大臣の奉り給へりけるを、「これに何を書かまし、上の御前には、『史記』といふ文をなむ書かせ給へる。」などのたまはせしを、「枕にこそは待らめ。」と申ししかば、「さは、得てよ。」とて賜はせたりしを、あやしきを、こよや何やと、つきせず多かる紙を書きつくさむとせしに、いともおぼえぬことぞ多かるや。

おほかた、これは、世の中にかしきこと、人のめでたしなど思ふべき名を運り出でて、歌などをも木・草・鳥・虫をも言ひ出だしたらばこそ、「思ふほどよりはわろし、心見えなり。」とそしられぬ、ただ心ひとつに、おのづから思ふことを、戯れに書きつけたれば、物に立ちまじり、人並々なるべき耳をも聞くべきものかと思ひしに、「恥づかしき。」なむどもぞ、見る人はし給ふなれば、いとあやしうぞあるや。げにそも理、人の憎むをよしと言ひ、ほむるをも悪しと言ふ人は、心のほどこそ推しはからるれ。ただ人に見えけむぞねたき。

左中将、まだ伊勢守と聞こえし時、里におはしたりしに、端の方なりし畳をさし出でしものは、この草子乗りて出でにけり。感ひ取り入れしかど、やがて持ておはして、いと久しくありてぞ返りたりし。それよりありきそめたるなめり、とぞ本に。

(跋文)

源氏物語

車争ひ

紫式部

六条御息所は前奉官妃であったが、光源氏をひそかに通わせるようになっていた。しかし、御息所は不安定な光源氏との関係に苦しみ、光源氏の愛情を頼みにならないと思っていた。

源氏、十一歳の時、桐原帝が朱雀帝に譲位したことに伴って、伊勢の斎宮と賀茂の斎宮も交替することになった。藤原に先だて行われる新斎宮の御輿(輿の儀式)の行列には、光源氏も特別にお供をする。そこで、大勢の人が光源氏の姿をひとめ見ようと集まった。六条御息所は、斎宮となった娘に付き添って伊勢に下ろうと思いつつも、光源氏に対する執着心を捨てきれずにいた。

大殿には、かやうの御歩きもをささし給はぬに、御心地さへなやましければ思しかげざりけるを、若き人々、「いでや、おのがどちひき忍びて見侍らむこそ、はえなかるべけれ。おほよそ人だに、今日の物見には、大将殿をこそは、あやしき山がつかへ見奉らむとすなれ。遠き国々より、妻子を引き具しつともまうで来なるを、御覧せぬは、いとあまりも侍るかな。」と言ふを、大宮聞こしめして、「御心地もよろしき隙なり。候ふ人々もさうさうしげなめり。」とて、にはかにめぐらし仰せ給ひて見給ふ。

日たけゆきて、儀式もわざとならぬさまにて出で給へり。隙もなう立ちわたりたるに、よそほしう引きつづきて立ちわづらふ。よき女房車多くて、雑々の人なき隙を思ひ定めてみなさし退けさする中に、網代のすこし馴れたるが、下簾のさまなど由はめるに、いたう引き入りて、ほのかなる袖口、裳の裾、汗衫など、物の色いときよらにて、ことさらにやつれたる気配しるく見ゆる車二つあり。「これは、さらにさやうにさし退けなすべき御車にもあらず。」と、口強くて手触れさせず。いづ方にも、若き者ども酔ひ過ぎたち騒ぎたるほどのことはえしたためあへず。おとなおとなしき御前の人々は、「かくな。」など言へど、えとどめあへず。

斎宮の御母御息所、もの思し乱るる慰めにもやと、忍びて出で給へるなりけり。つれなしづくれど、おのづから見知りぬ。「さばかりにては、さな言はせそ。大将殿をぞ豪家には思ひ聞こゆらむ。」など言ふを、その御方の人も交じれば、いとほしと見ながら、用意せむもわづらはしければ、知らず顔をつくる。つひに御車ども立てつづけつれば、副車の奥に押しやられてものも見えず。心やましきをばさるものにて、かかるやつれをそれと知られぬるが、いみじうねたきこと限りなし。榻などもみな押し折られて、すずなる車の筒にうちかけたれば、またなう人わろく、悔しう何に来つらむと思ふにかひなし。

ものも見で帰らむとし給へど、通り出でむ隙もなきに、「事なりぬ。」と言へば、さすがにつらき人の御前渡りの待たるるも心弱しや、笹の隈にだにあらねばにや、つれなく過ぎ給ふにつけても、なかなか御心づくしなり。げに、常よりも好みととのへたる車どもの、我も我もと乗りこぼれたる下簾の隙間ども、さらぬ顔なれど、ほほ笑みつつ後目にとどめ給ふもあり。

源氏物語

明石の姫君の入内

紫式部

光源氏は、六条院を完成させ、「みやび」の牌を尽くしたいという念願を果たした。六条院は紫の上をはじめ、六条御息所の娘である秋好中宮（後の斎宮で冷泉帝の后）、明石の君などにそれぞれ四季の町（御懸）を配した仕度な邸宅であったが、そうした辨れやかな世界は、同じ邸内ながら娘には全えなかつた明石の君の悲しみといったものに支えられ世界でもあった。

光源氏三十九歳の夏、十一歳になった明石の姫君が奉宮女御として入内することになった。

御参りの儀式、人の目驚くばかりのことはせじと思しつつも、おのづから世の常のさまにぞあらぬや。かぎりもなくかしづき振舞奉り給ひて、上はまことにあはれにうつくしと思ひ聞こえ給ふにつけても、人に譲るまじう、まことにかかることもあらましかばと思す。おととも宰相の君も、ただこのこと一つをなむ、飽かぬことかなと思しける。三日過ぎしてぞ、上はまかてさせ給ふ。

たちかはりて参り給ふ夜、御対面あり。「かくおとなび給ふけちめになむ、年月のほども知られ侍れば、うとうとしき隔ては残るまじくや。」となつかしうのたまひて、物語などし給ふ。これもうちとけぬるはじめなめり。ものなどうち言ひたる気配など、むべこそはとめざまじう見給ふ。またいと気高う盛りなる御気色を、かたみにめでたしと見て、そこらの御中にもすぐれたる御心ざしにて、並びなきさまに定まり給ひけるも、いと理と思ひ知るるに、かうまで立ち並び聞こゆる契りおろかなりやと思ふものから、出で給ふ儀式のいとことによそほしく、御輦車など許され給ひて、女御の御ありさまに異ならぬを、思ひ比ぶるに、さすがなる身のほどなり。

いとうつくしげに難のやうなる御ありさまを、夢の心地して見奉るにも、涙のみとどまらぬは、ひとつものぞ見えざりける。年ごろよろづに嘆き沈み、さまざま憂き身と思ひ屈しつる命も延べまほしう、はればれしきにつけて、まことに住吉の神もおろかならず思ひ知らる。思ふさまにかしづき聞こえて、心及ばぬこと、はた、をさをさなき人のらうらうじさなれば、おほかたの寄せおぼえよりはじめ、なべてならぬ御ありさま容貌なるに、宮も、若き御心地に、いと心ことに思ひ聞こえ給へり。いどみ給へる御方々の人などは、この母君のかくてさぶらひ給ふを、疵に言ひなすれど、それに消たるべくもあらず。いかめしう、並びなきことは、さらにも言はず、心にくく由ある御気配を、はかなきことにつけても、あらまほしうもてなし聞こえ給へれば、殿上人なども、めづらしきいとみ所にて、とりどりに、さぶらふ人々も、心かけたる女房の用意ありさまさへ、いみじくととのへなし給へり。

源氏物語

紫式部

形見の文

紫の上を失った光源氏は、移り変わる四季の風物全てに心を痛め、追憶のみに日々を送る。一周年も過ぎ、年の暮れが迫る頃、光源氏は出家の意思を固めていた。

今年をばかくて忍び過ぐしつれば、今はと世を去り給ふべきほど近く思しまうくるに、あはれなること尽きせず。やうやうさるべきことども、御心の中に思しつづけて、候ふ人々にも、ほどほどにつけて物賜ひなど、おどろおどろしく、今なむ限りとしなし給はねど、近く候ふ人々は、御本意遂げ給ふべき気色と見奉るままに、年の暮れゆくも心細くかなしきこと限りなし。落ちとまりてかたはなるべき人の御文ども、「破れば惜し。」と思されけるにや、少しづつ残し給へりけるを、ものついでに御覧じつけて、破らせ給ひなどするに、かの須磨のころほひ、とところどころより奉り給ひけるもある中に、かの御手なるは、ことに結びあはせてぞありける。自らしおき給ひけることなれど、久しうなりにける世のことと思すに、ただ今のやうなる墨つきなど、げに千年の形見にしつべかりけるを、見ずなりぬべきよと思せば、かひなくて、疎からぬ人々二人、三人ばかり、御前にて破らせ給ふ。

いと、かからぬほどのことにてだに、過ぎにし人の跡と見るはあはれなるを、ましていとどかきくらし、それとも見分かれぬまで降り落つる御涙の水茎に流れそふを、人もあまり心弱しと見奉るべきがたはらいたうはしたなければ、押しやり給ひて、

死出の山越えにし人を暮ふとて跡を見つものなほ感ふかな

候ふ人々も、まほにはえ引き広げねど、それとほのほの見ゆるに、心惑ひどもおろかならず。この世ながら遠からぬ御別れのほどを、いみじと思しけるままに書い給へる言の葉、げにその折よりもせきあへぬかなしきやらむ方なし。いとうたて、いま一際御心惑ひも、女々しく人わろくなりぬべければ、よくも見給はで、こまやかに書き給へるかたはらに、

かきつめて見るもかひなし薬塩草おなじ雲居の煙とをなれ
と書きつけて、みな恍かせ給ひつ。

(幻)